

資料

選択必修科目「国語表現Ⅰ」の 教科書単元における活動内容

成 田 愛 子

1. 本資料の目的

1999(平成11)年版学習指導要領において、高等学校（以下、「高校」）の選択必修科目として設置された「国語表現Ⅰ」の教科書単元を分類し一覧化することが、本資料の目的である。

「国語表現Ⅰ」が選択必修科目として高校国語科に設置されたのは、1999(平成11)年版学習指導要領期である。それ以前の1978(昭和53)年版及び1989（平成元）年版の学習指導要領では、選択科目として「国語表現」が設置されていた。以降、「国語表現」は選択科目として設置され続けている。しかし、選択とは言え必修科目として、「国語表現Ⅰ」という科目が置かれていたのはこの1999(平成11)年版のみである。

選択科目「国語表現」については、1978(昭和53)年版学習指導要領期の教科書について、幸田(2011)が検討している。「1）主に既存の教材文をジャンルごとに配置した編集のもの、2）主に文章表現の方法や文種ごとの特徴を概説したもの、3）1)と2)の折衷によるもの」と当時の教科書を区分する枠組みを示し、それぞれに該当する教科書を挙げている。

しかし、必修科目として置かれた「国語表現Ⅰ」についての検討は、管見の限り、論文や資料は見当たらない。本資料では、選択必修として1999(平成11)年当時新設された「国語表現Ⅰ」について、①教科書を区分する枠組みを帰納的に提示し、②教科書の様相を明らかにするために各単元の活動内容を一覧化することとする。

「読むこと」の学習に偏重する傾向が長年高校の国語科における課題であったが、その高校国語科で、表現することを重視した「国語表現Ⅰ」が必修科目として置かれた事実は着目に値する。2018(平成30)年に告示された高校の新学習指導要領では、「現代の国語」が新設された。この科目では、高校生が自ら学び表現することが求められている。その点で、新科目「現代の国語」と1999(平成11)年版の「国語表現Ⅰ」は共通している部分がある。「国語表現Ⅰ」の教科書の単元を一覧化することで、新科目の教科書のあり方を考える際の材料となる。

2. 「国語表現Ⅰ」教科書の発行状態

「国語表現Ⅰ」と同時期に置かれたもう一方の選択必修科目「国語総合」の教科書が全53冊発行されていたのに比して、「国語表現Ⅰ」は、本科目が設置されていた全ての年を通してわずか11点のみである。以下、発行年毎にその発行状態を示した。なお、「′」を付している教科書は、2002年・2003年の初版から改訂があった教科書である。

表 1 「国語表現Ⅰ」教科書の発行状況

発行年度	2002 年・2003 年	2006 年・2007 年	2010 年
発行教科書(教科書番号順)	①東京書籍(国Ⅰ001) ②三省堂(国Ⅰ002) ③教育出版(国Ⅰ003) ④明治書院(国Ⅰ004) ⑤第一学習社(国Ⅰ006) ⑥京都書房(国Ⅰ007)	⑦旺文社(国Ⅰ005) ②〃三省堂(国Ⅰ008) ⑤〃第一学習社(国Ⅰ010) ⑥〃京都書房(国Ⅰ011)	③〃教育出版(国Ⅰ009)

改訂のあった②三省堂、③教育出版、⑤第一学習社、⑥京都書房の4社については、改訂前後で内容、構成ともにほとんど変化は無く、単元の順序の入れ替えや単元の名称の変化が若干あるのみである。そのため、本資料では、改定前の単元を資料として示す。

3. 教科書分析の枠組み

本資料では、1999(平成11)年版の「国語表現Ⅰ」の実際の教科書を次の枠組みで資料化することとする。なお、この枠組みは、実際の教科書を検討した後に、帰納的に考案したものである。

A. 具体的な学習活動に即した展開の単元が主である教科書

A－a. 段階的なスキルの習得を目的とした単元構成

A－b. 場の設定がある大単元構成

B. 教材文を「読むこと」が中心でそれに課題が付随した単元が主である教科書

B－a. 文章表現の方法についての概説が主である単元構成

B－b. 既存の教材文が主である単元構成

なお、上記のAとBでは大きく編集方針が異なる。Aに分類される教科書では、具体的な学習活動が単元自体の要となっており、その具体的活動についての方法や手順、ポイントが教科書本文そのものとなっている。他方、Bに分類される教科書の本文は、表現の方法や文種についての書き下ろしの概説であったり作家の書いた作品であったりし、学習活動はその本文に付随するものとして示されている。そのため、両者の単元を同項目で資料化することは困難である。従って、あくまで教科書の単元の特徴が概観できるよう、AとBそれぞれで次のような項目を設置し資料化することとした。

A… (1) 目次における単元名

(2) 「課題」のような印はないものの、「～してみよう」といった形で本文中に示された具体的な活動内容の抜き出し。

(3) (2) とは別で示された「課題」や「発展」として示された内容の抜き出し。

B… (1) 目次における単元名

(2) 教材本文として示された教材名と筆者名（※書き下ろし教材の場合は「書き下ろし」と示す。）

(3) (2) に付随する「課題」として示された内容の抜き出し。

なお，凡例として，次の項目が挙げられる。

①コラムや小見出しのトピックのような形で示された情報は，本資料から除外し，あくまでひとまとまりの学習を想定して示された単元のみを資料化することとした。

②導入や例として示された教材については省略した。

この分析枠組みに基づくと，上記の①～⑦の教科書は，次のように分類することができる。

表2 「国語表現Ⅰ」教科書の分類

A.具体的な学習活動に即した展開の単元が主である教科書	A-a.段階的なスキルの習得を目的とした単元構成	③教育出版
	A-b.場の設定がある大単元構成	②三省堂
B.教材文を「読むこと」が中心でそれに課題が付随した単元が主である教科書	B-a.文章表現の方法についての概説が主である単元構成	①東京書籍、④明治書院、⑤第一学習社、⑦旺文社
	B-b.既存の教材文が主である単元構成	⑥京都書房

4. 分析枠組みに基づいた教科書単元の一覧

A-a.段階的なスキルの習得を目的とした単元構成

③教育出版(国 I 003)			
(1)目次における単元名	(2)単元内本文に示された課題	(3)(2)とは別に示された「課題」や「発展」	
1 ことばに 変える	ステップ1 速く正確に書き写す	●書かれたとおりに書き写す(視写) ・次の文章を三分以内でノートに書き写してみよう。 ※文章省略=資料作成者 ・書き写したものを教科書と見比べてみよう。 ●聞いたとおりに書き取る(聴写) ・次の要領で、互いに文章を読み合い、書き取ってみよう。 ①一回に読み上げる量は、一段落程度とし、三回繰り返す。(普通の速さ一ゆっくりに普通の速さ)②書き取ったら、辞書を使い、適当な漢字仮名交じり文にする。③もとの文章と比較し、誤りについて考えてみる。	[課題]次の文章を聴写してみよう。 ※文章省略=資料作成者 [課題]速く正確に書き写すための工夫を出し合ってみよう。 ワープロの場合についても考えてみよう。
	ステップ2 メモを取る・メモで伝える	●適切なメモ ・次の連絡をもとにした二つのメモを検討し、適切なメモの取り方を考えてみよう。 ※文章省略=資料作成者	[課題]以下は、来週の「校外学習」の連絡である。必要な事柄をメモしよう。また、取ったメモを隣どうしで比較し、よいところ、直したほうがよいところを指摘し合ってみよう。 ※文章省略=資料作成者
	ステップ3 絵をことばにする	●絵をことばに変える ・次の絵をことばで説明してみよう。 ※絵省略=資料作成者 ●部屋の間取りをことばに変える ・次の文章は、六畳の部屋の様子を伝えているが、これから正しく間取りを再現することは難しい。空間を説明する場合にどのようなことに気をつけなければならないだろうか。 ※文章省略=資料作成者	[課題]身のまわりのものについて、形や特徴をメモに記し、それをもとにして、電話口の相手にわかるように説明してみよう。 [課題]自宅の部屋の間取りをことばで説明してみよう。
2 声の 表現	ステップ1 声を出そう(発声・発音)	●呼吸法と姿勢 ・(前略)まずは、姿勢から変えてみよう。背筋を伸ばし、上半身の力を抜いて、リラックスしてすに浅く腹かけよう。(中略)ややあごを引いて、口は閉じたまま、鼻からゆっくりと息を吸い込んでみよう。その時、吸い込んだ息は、おなかをふくらませておへそのあたりにためるようなイメージでやってみよう。息を吐くときは、おなかを引き締めるようにしながら、ゆっくりと「アー」と声を出してみる。おなかに手を当てて、腹筋が動いているか確かめてみよう。(中略)これが腹式呼吸である。 ●ウォーミングアップ ・意外に難しい早口ことば。一音ごとの正確な発音や単語のアクセント、全体の流れなどに留意して、声に出して読んでみよう。 ※早口ことば省略=資料作成者	[課題]ほかにも早口ことばや言いにくいことばはたくさんある。いろいろ集めて練習してみよう。
	ステップ2 文字を声に変える	●文の係り受けを意識して読む ・手紙を読むのではなく、書かれた「意味」を意識して、文の係り受けがずれないように読んでみよう。 ※文例省略=資料作成者 ●さまざまな種類の文章を読んでみよう ※文例省略=資料作成者	[課題]文例1～3の文構造(文の係り受け)を明らかにしよう。 [課題]二人一組になって各文例を読み合い、よいところ悪いところをお互いに指摘し合ってみよう。
	ステップ3 スピーチの方法	●スピーチの準備 ・(前略)原稿を書いてみよう。	[課題]上記スピーチ例の網掛け部分を各自で言いかえて練習しよう。 [課題]「今、いち押しの音楽」「部活紹介」「私の友人」の中から一つ選び、三分間でスピーチしてみよう。
	ステップ4 声の発表会「私のおススメBOOK」	・それでは実際に、これまでに学習してきたことを生かして、みんなの前で声の発表してみよう。ここでは、あなたが好きな本をそれぞれ選び、その紹介とあわせて一部分を朗読する発表会を考えてみる。 ・まずは、本選びから始めよう。 ・次に、みんなの前で「発表」「披露」するときどんな準備や心構えが必要なのか考えてみよう。 ●発表の構成 ・次の構成表にそって、本の内容紹介と全体の構成を設定しよう。 ※構成表省略=資料作成者 ●本番の注意 ・いよいよ本番。緊張感と熱いながら、練習の成果を出さよう。終了後、お互いに感想・意見を出し合い、相互評価をしてみよう。	[課題]①各自で繰り返し練習するとともに、二人一組になってリハーサルをし、気づいた点を出し合おう。 ②実際に本を一冊選び、上記の要領で構成表を作ってみよう。
3 コラム を書く、本 を作る	ステップ1 コラムを読む ●コラムサンプル集	●次のページの「コラムサンプル集」にいろいろな分野の人の書いた、内容も形もさまざまなコラムをあげている。(中略)読みながら、どんなところに感心したか、どんな点に注目したか、サンプルの文章にマークしたり、書き抜いたり、メモをしたりして、それを「××の手法」というように名づけてみる。(後略) ●その手法を他の人に説明してみる ・「このコラムは、『××の手法』を使っているのだから共感した。」とか、「説得力があった。」というように、自分の見つけた手法を他の人に発表してみよう。	[課題]最近読んでもおもしろいと思った短い文章をコピーして、そのおもしろさの手法を取り出してみよう。そのコピーに短い解説文を書き加えてみよう。また、気に入った文章を集めて、解説文をつけ、自分用の「文章読本」を作ろう。
	ステップ2 コラムを書く	・ステップ1で見つけた文章のおもしろさを参考にして、今度はあなたがコラムを書いてみよう。(中略)まず原稿の下書きを、原稿用紙でなく、そのまま印刷できる紙に、次のような形で書いてみよう。 ※図省略=資料作成者 ●原稿を書き終えたら推敲する ・(前略)語句のまちがいはないか、説明不足ではないか、というように読者の立場になって、いろいろな角度から検討してみよう。(後略)	×
	ステップ3 本を作る	・書いたコラムをまとめて本(コラム集)にしよう。	[課題]今度は長めの文章、エッセイや評論に挑戦してみよう。 [課題]自分たちのコラム文集の第2週を作ってみよう。表紙の紙や製本の仕方に工夫をすると楽しいものができる。同人誌を作ってフリーマーケットに出品することもできる。
4 ことば遊びと創作	ステップ1 ことば遊び	・(前略)まずは、先人たちによって編み出されたことば遊びの幾つかにふれてみよう。	[課題]自分の氏名を折り込んでアコースティックを作ってみよう。 [課題]上段にあげたことわざのパロディのもととなった本来のことわざを確認してみよう。 [課題]ことわざと四字熟語のパロディを作ってみよう。
	ステップ2 川柳を作ってみよう	・(前略)難しいことは考えず、とにかく川柳を作ってみよう。 ●虫食い川柳 ●空欄に文字を入れて川柳を完成させよう。 ※間省略=資料作成者 ●川柳日記 ・(前略)右の例を参考に、一週間程度の川柳日記をつけてみよう。また、これ以外にも、アコースティックの手法を用いて、「アイウエオ川柳」かるたをクラスで作るなど、さまざまな川柳を楽しんでみよう。	×

	ステップ3 広告コピーを作ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の広告を作ってみよう ・自分と言う存在を売り込む(紹介する)ための広告を作ってみよう。広告はイラストや写真など、ことばでないものを利用してもかまわないが、必ず「ヘッドライン」コピーをえるようにしよう。(後略) 	×
	ステップ1 ことばの性質を知る	<ul style="list-style-type: none"> ●語順 ・文もまた、それを構成する単語の順序を問題にする。次にあげる単語を並べかえて、文を作ってみよう。 ※単語省略=資料作成者 ・文を構成する単語の順序が変わってしまうことで、別の意味になったり、意味をなさなかったりすることを確かめよう。 ●ことばの意味のあいまいさ ・ここまで、ことばの性質を、主に形式の面からみてきた。今度は、ことばの意味内容の面に立ち入ってみよう。 「生徒たちが好きな体育の先生が来た」…この文は少なくとも三通りの意味に解釈される。(中略)なぜ、このように解釈されるのか考えてみよう。 ●場面におけることばの意味 ・次に、場面とことばの意味の関係について考えてみよう。場面A・Bの吹き出しには、「ちょっと蒸し暑くなってきましたね。」ということばが入る。それぞれどのような意味を表しているのだろうか。 	<p>[課題]「太郎は昨日花子とその本を買ったといった」という文はあいまいな表現である。誤解のないようにするために、語順を工夫してみよう。</p> <p>[課題]次の文では、意味があいまいになることはない。上の文と比較し、その理由を考えてみよう。 ※文例省略=資料作成者</p> <p>[課題]次にあげる文は場面によって二通りの意味になる。それぞれの場面と意味を考えてみよう。 ※文例省略=資料作成者</p> <p>[課題]次の発言はどのような意味をもっているだろうか。さまざまな場面を想定して考えてみよう。 ※文例省略=資料作成者</p>
5 ことばと人間	ステップ2 単語の由来を探る	<ul style="list-style-type: none"> ●語源カードを使って、語源調べをしてみよう ①取り上げた語について、これまで語源がどのように考えられていたかを調べ、大型の国語辞典などに「語源説」が載っているのを、参考にしてもよい。 ②調べたことは、カードに書き込む。 ③調べたことについて疑問などがあたら、さらに国語辞典や古語辞典、漢和辞典などで調べてみる。 ④幾つかの説と比較して、自分なりの語源説を考えてみる。 ⑤できあがった語源カードをまとめて、「辞典」を作ってみよう。 	<p>[課題]ヒントの用例を参考にしながら、語群の単語について、カードに書き込みながら、語源を調べてみよう。</p> <p>[課題]以下の動物名について、グループで手分けしてその由来を調べ、「〇年△組 動物語源辞典」を作ってみよう。 ※動物名省略=資料作成者</p>
	ステップ3 関係にはたらきかけることば	<ul style="list-style-type: none"> ●あいさつ ・(前略)次にあげる挨拶がどのようになされているか、a時間、b相手、c場面、d目的について観察してみよう。 ※あいさつ省略=資料作成者 ●待遇表現 ・(前略)日本語の特徴の一つである敬語を観察してみよう。 ●励ますことば、傷つけることば ・(前略)次の二つの文章とズームアップsの文章を参考にし、ことばと人間関係について考えてみよう。 	<p>[課題]前ページ上段の①～④のあいさつことばが目上の人に使えるか確かめてみよう。使えない場合は、どのような形に変えたらよいか、考えてみよう。</p> <p>[課題]前ページ上段②～⑤について語源を調べてみよう。</p> <p>[課題]次の語の尊敬語と謙譲語を言ってみよう。 ①いう/②食べる/③見る</p> <p>[課題]自分自身の体験の中で、「勇気づけられたことば」「傷つけたことば」「私を変えた一言」「許せない一言」をノートに書き出し、どのような状況や場面で発せられたものか確認しよう。</p> <p>[課題]社会において、ことばが凶器になっている例や教いになっている例を探し出し、感想と意見を書いてみよう。</p>
	ステップ1 小論文を書くために	<ul style="list-style-type: none"> ●「思考」を紙の上に取り出してみよう ・(前略)課題を分析し、発想を広げ、さまざまな角度から検討しながら主題は形になる。「問い」から「答え」に至る思考のプロセスが大事である。その思考を紙の上に取り出してみよう。 	<p>[課題]次にあげる小論文の「課題」について、それぞれ思考のマッピング・メモと主題文を作ってみよう。 ※課題省略=資料作成者</p>
6 小論文・レポートを書く	ステップ2 構想ノートの作り方	<ul style="list-style-type: none"> ●構想ノート ・小論文を書くための手順を、次の構想ノートを使って学習しよう。 ※ノート省略=資料作成者 ●いざ執筆へ ・論のイメージができたら、実際に文章化してみよう。 	×
	ステップ3 小論文生徒作品例と相互批評	×	×
	ステップ4 レポートを書く	×	<p>[課題]「水と現代人の生活」について、二千五百字程度のレポートを作成してみよう。</p>
7 会話・会議・発表	ステップ1 会話の目的と機能	<ul style="list-style-type: none"> ●書きことばを話しことばに ・次の文章は東京の浅草についての『江戸東京学事典』における記述の一部である。この文章を資料にして、小学六年生の子供を相手に浅草の紹介をする、という想定で、この書きことばを話し言葉にかえてみよう。 ※文章省略=資料作成者 	<p>[課題]友人や家族どうしの数分間の会話をテープに録音して、今度はその話しことばを書きことばにかえてみよう。どのようなことがわかるだろうか。</p>
	ステップ2 意思決定・合意形成のための会議	×	<p>[課題]にの話し合いでは、原案の提案者である父親の希望は、切り捨てられてしまう結果となってしまっている。司会者として、最後にどのような発言をすれば、会議の[4]の原理である少数派尊重が果たされたことになるであろうか。</p>
	ステップ3 グループ・プレゼンテーションに挑戦しよう	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ・プレゼンテーション ・グループに分かれて、身近なテーマを選んで、簡単な調査をして、その結果を約二十分程度のグループ・プレゼンテーションに構成して、実際に挑戦しよう。 	×
	ステップ1 年譜を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・左の年譜を参考にして、生まれてから中学校を卒業するまでの年譜を作ってみよう。 ・次に、「学習のポイント」に記した着眼点を参考にして、年譜を完成させよう。 	×
8 自己との対話	ステップ2 材料を集めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・時間のある時期に限定して、よりくわしく過去の自分を再現してみよう。 	<p>[課題]できあがった数枚のカードに、それぞれタイトルをつけ、時間を超えて並べたり、テーマによって並べかえたりしてみよう。そして、それをクラスの中で交換し合い、相互批評をしてみよう。</p>
	ステップ3 自分史を書こう	×	<p>[課題]自分史を書いてみよう。ステップ1の年譜を頼りに幼少年期の自分を総括的に語る。あるいは、ステップ2で書いたカード、ある時の私を深く掘り下げて書く。文章のまとめ方はさまざまである。私がいちばんよく表れる書き方を考えよう。</p> <p>[課題]①子供のころ、どんな夢をもっていただろうか。そして、今どんなことを夢見ているのか。比較してつながりを考えてみよう。</p> <p>②自己探求に向かう文章を書くうちに、他者と出会い、社会との関係が生まれることがある。それを小論文の形に発展させるとおもしろい。「高齢化社会」「家族」「生と死」などさまざまな問題に発展するはずである。</p>

9 世界との対話	ステップ1 場面に 応じたことば(手紙)	・手紙の形式を学ぼう。 ●形式にとらわれない手紙 (前略)さまざまな伝え方を工夫してみよう。	【課題】友人の祖父(ことばづかいに厳しい人物)が、自分の紛失したものを見つけてくれた。電話でお礼をするのでは誠意が伝わりにくいので、手紙を書くことにした。形式にのっとって手紙をかいてみよう。 【課題】住友はがきを受け取ったときには、返信はがきの書き方に気をつけなければならない。小学校の同意会の通知を、住友はがきで受け取ったという設定で、出席の返事を書いてみよう。 【課題】次のいずれかを選択し、手紙を書く。 ①上の例文を参考に、短い壁の手紙を書こう。②お盆で帰省した時、祖父母にお世話になった。礼状の代わりにフлакシミリで、お礼をしたい。短いことばと絵を取り混ぜて書いてみよう。
	ステップ2 社会とつながることば(面接)	・(前略)ここでは面接の基本的事項を学ぼう。 ●自己を分析する (前略)自分のどこを認めてもらうか、自分には何がアピールできるのか。幾つか書き出してみよう。 ●表現を工夫する (前略)具体的な材料を見つけ、話し方の手順を考えよう。	【課題】自分にはどんなエピソードがあるか、次の質問に答えてみよう。 ①友人関係/②印象に残る学校行事/③部活動で何を得たか/④好きな本や映画 【課題】次にあげるものは、質問に対するよくない答え方の例である。適切な表現に改めよう。 ※例省略=資料作成者 【課題】自分の短所を三つあげ、それを長所として言いかえてみよう。
	ステップ3 発信することば(投書)	・(前略)新聞や雑誌に投書をする。市役所など公的機関へ意見文を送るなど、高校生が、世界に向けて投げかけられるものにはいろいろある。一石を投じてみよう。 ●投書を書く ・新聞の投書には、字数制限があり、特に四百字から五百字のものが多い。短い文章で、読者に興味をもたせるにはどうすればよいのだろうか。自分の問題意識を社会に向けて発信してみよう。	【課題】下書きをもとに、構成を考えて新聞の投書を書いてみよう。(原稿用紙に四百字程度)
10 情報の海を航海する(メディアのリテラシー)	ステップ1 情報を集める	x	【課題】学校の図書館で各自、文献カードを作成して、互いに他の人がそれを探し当てることができるか、確かめよう。また、作成したカードをパソコンのデータベースソフトに入力して、著者名の五十音順、発表年順などに並べかえてみよう。 【課題】自分の蔵書の目録を作ってみよう。また、好きな音楽・絵画・映画・テレビ番組・ホームページのリストをカードにする場合、どんな項目が必要か考えてみよう。
	ステップ2 情報をまとめる	x	【課題】第3章、第8章で作成したコラム、自分史を、画像やサウンドもつけ加えて、電子文書に作りかえてみよう。
	ステップ3 情報を発信する	●自分用のリンク集を作る (前略)自分の関心を自分で確かめるために、自分用のリンク集を作ってみよう。	【課題】電話と電子メールと、それぞれで、友達に同じメッセージを伝え、効果の違いについて感想を述べ合おう。手紙の場合と比べるとどうだろうか。

Aーb.場の設定がある大単元構成

②三省堂(国 I 002)			
(1)目次における単元名		(2)単元内本文に示された課題	(3)(2)とは別に示された「課題」や「発展」
一 「わたし」のことを語る	1 「わたし」のことを話してみよう	・まず、自分のことを話してみよう。「実は、わたしはこんな人間なんだ」ということを伝えてみよう。 ・次は、書くことによって自分のことを表現してみよう。話すだけではうまく伝えられなかった自分というものを表現してみよう。	
	2 「わたし」のことを書いてみよう	・「自分」のことを語るために何を書けばよいのか、グループに分かれて話し合ってみよう。 ・決まったテーマについて、何を書くか考えよう。大まかな内容が決まったら、それをまずグループの中で話してみよう。 ・さあ、もう一度整理してから書いてみよう。書くことなんて何もないよ、なんて言わないで、もう少し考えて書いてみよう。	【発展】 いろいろな自己紹介のしかたを身につけることも、これからの課題になる。 一対一での自己紹介、みんなの前での自己紹介、少し改まった場での自己紹介、手紙での自己紹介、……。状況に応じて、何をどこまで伝えればよいのかを考えながら、自分のことを表現してみよう。
	3 「自己紹介集」を作ってみよう	・印刷して、製本。自分がやらなくたってだれか作らさう、なんて言わないで、みんなで作ろう。	
	4 「自己紹介集」をみんなで読んでみよう	・自分の(好きなもの・好きなこと)を書くことを通じて、「わたし」のことを語ることができただろうか。みんなに、「わたし」のことが伝わっただろうか。そうしたことをまず自分でふり返ってみよう。それから、他の人の意見も聞いてみよう。	
二 新聞に投書してみよう —自分の意見を表現する I—	1 投書を読む	・初めに新聞の投書欄を三日分読んでみよう。そして、その中で特に印象に残った投書の一つだけ選んで、あらかじめ用意しておいた課題プリントにはりつける。その際、投書が載った新聞名や日付も忘れずに記入しておく。 ・そして、①投書を書いたのはどのような人物か。②投書にはどのような意見が述べられているか。③その意見はどのような体験や事実に基づいて述べられているか、という三つの項目に投書の内容を整理し、それからその投書を読んだ自分の感想や意見も簡潔にまとめておく。 ・それができたら、今度は班に分かれて、課題プリントを参考にしながら、自分が選んだ投書の内容と感想を紹介する。その後で自由に意見を述べ合う時間もとるとよい。	
	2 投書を書く	・それでは、今度は実際に投書を書いてみよう。(中略)字数は四百字程度、長くても五百字までとしよう。 ・ここでは、日常の体験に基づいていることを条件に、「最近気がついたこと」「最近気になること」を題材にして投書を書いてみよう。 ・自分が書いた投書を、「投書を書くための留意点」を踏まえて推敲してみよう。 誤字・脱字、文のねじれがないかどうか、ここで点検しておく。 ・書き上がったものをだれかに読んでもらい、意見や反論を書いてもらうことも効果的である。そうした意見や反論を参考に、より説得力のある投書を完成させよう。	【発展】 後見返しを参考に、自分たちで論題を考え、実際にディベートをしてみよう。
	3 投書を読み合う	・書き上げた当初はクラス全体で集めよう。そして、担当者を決めて、テーマ別に分類してから印刷し、製本する。 ・それをみんなで読み合い、お互いに批評してみよう。 ・そして、実際に新聞に投書してみよう。	
三 クラス企画ミニ講座	企画手順1	・まず、だれがどのような話を聞きたいかということ話し合うことに使用。出た意見は、記録係の一人が黒板に、もう一人はノートに記録していこう。	【発展】 人の話を受け身で聞くだけでなく、人の話を積極的に聞き出してみよう。向かい合って一対一でインタビューをすること
	企画手順2	・次に、どのようにしたら実際に話をもらえるかにについて話し合ってみよう。 ※この後、手紙の書き方や電話のかけ方についての概説がある。	

演会	企画手順3	※「ミニ講演会」をするために、スケジュール、会場整備、記録、資料、案内、司会進行・接待の方法についての概説が書かれている。	は、たいへん難しいことではあるが、話しをより深く理解するおもしろさがある。
	ミニ講演会当日	※感想を文集にする、と言う旨が書かれている。	
四 この本読んでみて！一本を紹介しよう	みんなで紹介文を書いてみよう	・この本を他の人にも読んでもらいたいと思う本を選んで書いてみよう。 ・では、次の手順に従って、紹介文を書いてみよう。 Ⅰ 紹介する本を選んで簡単なコメントを付けてみよう。/Ⅱ コメントを読んで質問し合おう。/Ⅲ 文章の構成を考え、紹介文を書いてみよう。	【発展】 自分の書いたもの以外で、興味を引いたものはどれか、投票してみてもどうだろう。その上で、実際に上位にランクされた本を読んでみて、適切な紹介文であったかどうかを確認してみてもよいだろう。
	みんなの書いた紹介文を読んでみよう	・紹介文を書きあげたら、それぞれの文章を印刷し、「紹介文集」を作ってみよう。 ・そして、みんなの書いた紹介文を読んで、その本を読みたくなったかどうかお互いに批評してみよう。	
五 聞き書きの世界—身近な人の話を聞こう—	1 周囲の人物をふり返ってみよう	・わたしたちの身近にいるだれか、ちょっと興味を引かれるすてきな人を探してみよう。	×
	2 会って話を聞いてみよう	・その人に会ったらどんなことを聞くのかをまず決めよう。 ・約束をとろう。聞き書きのためには、とにかくその人と直接会わなければならない。しかし、どんな人にも暮らしや生活がある。(中略)電話、手紙、ファックス、メール、いちばん確実に便利な方法で連絡を取ろう。 ・じっくり話そう。(中略)ゆっくり時間をかけ、じっくり話すつもりで出かけよう。 ・時期や月日、固有名詞や初めて知る単語は、一度ではなかなか覚えられない。だから、ここでは積極的にメモを取ろう。 ・最後には必ず丁寧にお礼を言おう。	
	3 聞いたことをまとめてみよう	・では、次に、聞いた話の内容をまとめる作業に入ろう。 ・メモを手がかりにインタビューを再現してみよう。 ・インタビューから「聞き書き」の文章への書き換えをやってみよう。 ・次に、今回の聞き書きの動機をもう一度整理してみよう。 ・では、いよいよ最後に、全体をまとめてみよう。	
	4 「聞き書き集」を作る	・完成したら、聞き書きでお世話になった人たちに、精一杯の感謝の気持ちを含めて、わたしたちの「聞き書き集」を送ろう。	
六 情報手帳で伝えよう、学校生活の知恵—情報の収集・整理と伝達—	1 プレーンストーミング	・まず最初に、情報手帳に入れる内容をクラス全員で出し合ってみよう。 ・脱稿の際に、同じような内容のものを分類・整理していこう。	【発展】 本だけでなく、さまざまなメディア(表現媒体)にも挑戦してみよう。 ビデオ、カセットテープ、インターネット(ホームページ)など、それぞれに表現法の特徴がある。
	2 編集会議	・分類ができていつかのトピックが浮かび上がってきたら、グループを作って分担し、情報手帳作りに向けて具体的な話し合いをしよう。グループでは、集まった情報を取捨選択することから始めよう。 ・グループでの話し合いが終わったら、クラス内で発表をしよう。 ・全体の様子が見えたら、次はアウトライン作り。全体をどのくらいのページ数にするか、各グループの割り当てをどのくらいの分量にするか、どのような順番にするか、みんなで話し合おう。	
	3 取材	・情報の内容を確認し、足りない部分を補うために取材をしよう。まずその場所へ行こう。自分たちで調査や観察をする。インタビューやアンケートを行うことも効果的だ。	
	4 執筆	・グループの中で執筆の分担をして、記事にしよう。まず、大まかな割り付けをする。記事は各自が下書きし、書き終えたら、お互いによく点検してから清書する。 ・各グループで原稿ができたら、印刷・製本をして一冊にまとめよう。	
七 文学の表現—表現を豊かにする—	1 古典の表現 蝶と蜂のこと…伊曾保物語より	・次の物語を、歴史的仮名遣いに注意して、繰り返し音読してみよう。そして、慣れたら、後にあげた課題に取り組んでみよう。 【課題】(1)この物語には、現代では用いられなくなったことばがたくさん使われている。古文を読む場合は、このようなことばに注意する必要がある。次のことばの意味を古語辞典を使って調べてみよう。 ※語句省略=資料作成者 (2)この物語の内容を理解するために、次の点について考えてみよう。 ①蝶は蜂のどのような点を「あないみじ」と言ったのか。 ②我に少しの餌食をたびたまへ。」という蜂の申し出に対して、蝶はどのような態度をとったか。 ③この物語を、たとえ話と教訓との二つの部分に分けるとすると、どこで分けられるか。 (3)この物語の原典である『イソップ物語』は十六世紀に日本に伝えられ、江戸時代に入ると広く読まれるようになった。その過程で、当時の人々が受け入れやすいように、表現に工夫が施されていったのである。次にあげるのは、この物語の原典となった『イソップ物語』の一種である。「蝶と蜂のこと」と、この「七とアリ」とではどのような点が異なっているだろうか。例えば、季節の描かれ方、蝶や蜂の語ることばやそれに対するそれぞれの反応のしかた、たとえ話から引き出される教訓など、さまざまな点に着目して読み比べてみよう。	【発展】 幼いころに読んだ物語をもとに、想像力を働かせて自分なりの新しい物語を作ってみよう。 自分が選んだ物語が新しい物語として生まれ変わるためには、語り手の設定や物語の中心人物を入れ替えたり、物語の舞台を置き換えたりすることが必要になる。例えば、物語の中に悪役として登場する人物や動物の視点に立って語ったり、物語の舞台を現代や未来に置き換えたりするのである。それ以外にもさまざまな工夫をして、物語を書き換えてみよう。 書き上がったら、それをクラスで集めて印刷し、製本しよう。その際、例えば「新釈世界おとぎ話」というように、自分たちで書名も考えてみよう。そして、それをみんなで読み合い、お互いに批評してみよう。
	2 文学の表現 ありとぎりぎりす…佐野洋子	・次の作品を読んで、後にあげた課題に取り組んでみよう。 【課題】(1)この物語では「おれ」が語り手として設定されている。このことはどんな効果を生んでいるだろうか。考えてみよう。 (2)この物語では、語り手は「ぎりぎりす」のことを「あの男」「その男」「男」と呼んでいる。そのことにどんな意味があるのか、考えてみよう。 (3)この物語から心理や情景の描写のすぐれたところを抜き出してみよう。 (4)この物語のおもしろさはどこにあるのか、話し合ってみよう。	
八 「わたし」にとっての国際化—自分の意見を表現するⅡ—	1 「考え」を出す	・まず、いつものようにグループに分かれて話し合ってみよう。進行役の人を決めたら、一人ずつ自由に発言するところから始めよう。 ・発言が一回りしたら、他のメンバーからの質問を受けて、もう少し考えてみよう。	【発展】 国際化の問題だけではなく、「わたしにとっての○○○」をテーマとして考え、自分の意見を表現してみよう。「わたしにとっての環境問題」「わたしにとっての教育問題」というように、大きなテーマを自分にとっての問題として考えてみるのがたいせつだ。
	2 「考え」を整理する	・他の人からの質問、意見、アドバイスなどをふまえ、自分の「考え」を整理してみよう。よくわからないことについては、図書館やインターネットを利用して調べてみよう。	
	3 整理した「考え」を口頭発表する	・発表をしたら、クラスのみんなの質問や意見を聞いて、さらに考えを深めていこう。今度は、感想(評価)シートによかった点や改めたいところがよい点など、気づいたことを書いて、それを発表者に渡し、という方法を使ってみよう。 ・クラスのみんなに書いてもらった感想シートを使いながら、意見を交換することによって、さらに考えを深めていこう。	
	4 「考え」を文章化する	・グループの人たちだけでなく、クラスのみんなの感想も参考にして、最後に文章化してみよう。話す時の表現と、書く時の表現との違いなども考えながらレポートを書いてみよう。 ・きちんと清書したら、「レポート集」を作って読み合い、みんなの考え方について再び話し合ってみるとよいだろう。	

B-a.文章表現の方法についての概説が主である単元構成

①東京書籍(国 I 001)		
(1)目次における単元名	(2)教材名と筆者名	(3)(2)に付随する「課題」
1 スピーチ入門—メモをもとにしたスピーチ—	・書き下ろし「スピーチに挑戦しよう!」2 よい話し手、よい聞き手になるために」	<p>[学習活動1]次の中から、自分がスピーチする場合に選ぼうと思うテーマを取り上げ、思いつくまでに、話の素材を書きだしてみよう。</p> <p>①わたしが疑問に思っていること/②納得のいかないこと/③街で見つけた不思議/④好きな言葉、嫌いな言葉/⑤中学時代の私</p> <p>[学習活動2]次のような順序で、スピーチの構成を考えてみよう。</p> <p>①学習活動1で作った素材メモをもとにして、スピーチの中心を決める。/②①で決めたスピーチの中心に対して、付け加えることはないかを考え、具体的に補う。/③2を核にすえて、前後に持ってくる導入と結論の素材選びをする。</p> <p>[学習活動3]スピーチの構成メモを作ろう。</p> <p>[学習活動4]次のような点に気づけて、スピーチをしてみよう。</p> <p>①はっきりした発声声をかけろ。/②ゆっくりと話す。/③わかりやすい言葉づかいを心がけ、聞き手が理解しにくいと思われる言葉は、直後に言い換えるなどの工夫をする。</p> <p>[学習活動5]他の人のスピーチを聞いて、次ページの「スピーチアドバイス」の形式で、感想を記入しよう。</p> <p>[学習活動6]聞き手として、ほかにもどんなことを注意したらよいか、考えてみよう。</p>
2 記録を活用する—生活に生きる記録の工夫—	・書き下ろし「1 記録の技術を考える」2 いろいろな記録を取ろう」	<p>[学習活動1]記録を残すということが、どのような意味を持っているか話し合ってみよう。</p> <p>[学習活動2]校庭へ出て、事実を探すという視点で、見たものを記録してみよう。</p> <p>[学習活動3]新聞記事の中から、SWIの視点で表されたものを集めてみよう。</p> <p>[学習活動4]自分たちの身近な記録(例えば、部活動の記録や生徒会の会議録など)について、その目的を考えてみよう。また、それぞれの記録の仕方に関する問題はないか、話し合ってみよう。</p> <p>[学習活動5]博物館や郷土資料館などでの体験を見学記録にまとめてみよう。 ※見学計画を立て、実際に見学に行ってみよう。</p> <p>[学習活動6]議題を決めて、学級会を開き、その議事録を各自が書いてみよう。</p> <p>[学習活動7]見学記録と議事録では、記録としてどのような違いがあったか、また、どのような類似点があったかについて、話し合ってみよう。</p> <p>[学習活動8]例に出ている観察記録はどのようなところがよくできているか、話し合ってみよう。</p>
3 インタビューの技術—相手の考えを尊重して—	・書き下ろし「インタビューをしよう」	<p>[学習活動1]インタビューによって情報を得ることは、書籍や文献、インターネットなどで情報を得ることと、どのように違っているか、それぞれの長所、短所を比べてみよう。</p> <p>[学習活動2]インタビューにはどのような問題点があるのか、また、どのようにそれを避けるべきかについて話し合ってみよう。</p> <p>[学習活動3]筆者は「インタビューのおもしろさ」をどのようなものだと考えているか。</p> <p>[学習活動4]上の例を参考にして、グループでインタビューの計画を立ててみよう。</p> <p>[学習活動5]手順に従って準備をし、インタビューに出かけよう。</p> <p>[学習活動6]報告書の形式を工夫して、インタビューをまとめてみよう。</p>
4 手紙と電話—相手に配慮した表現—	・書き下ろし「1 手紙と通知文」2 電話」	<p>[学習活動1]手紙には、なぜ形式が必要なのかを考え、ノートに整理してみよう。</p> <p>[学習活動2]国語辞典や参考資料で、手紙で使われる常用語にはどのようなものがあるか、調べよう。</p> <p>[学習活動3]形式に注意して、次の中からどれかを選んで、実際に手紙を書いてみよう。</p> <p>①世話になった人へのお礼/②中学校の先生に、高校生活の近況を伝える/③失礼をわびる(例えば、何かに対するお礼が遅くなった時、返し忘れていたものを返そうとする時など)</p> <p>[学習活動4]例を参考にして、次の中からどれかを選び、実際に通知文を書いてみよう。</p> <p>①文化祭または体育祭の案内/②中学の同窓会の案内/③転居の通知</p> <p>[学習活動5]次のような場合、どのように電話対応すればよいだろうか、話し手と受け手になって、役割演技をしてみよう。</p> <p>①会社で ※自分の会社の製品に不備があると、お客から苦情があった時/②家庭で。 ※不在の母に、地域サークルの週末の写生会について、連絡網で通知があった時。</p> <p>[学習活動6]次の例文はいずれも電話での応答の例である。括弧中の言葉を、正しい「表現」に直し、どのように敬意を表したのか、説明してみよう。</p> <p>①先生が言ったことは、忘れません。/②(雇いた)品物を受け取ったか。/③(わたしの父さん)は、そのことについては、先日(訪ねた)時に(話した)と(言っていた)。</p>
5 情報を探する—図書館の活用—	・書き下ろし「調べの技術」	<p>[学習活動1]ふだん、何かについて調べようとするときに、どのようにしているか、話し合ってみよう。</p> <p>[学習活動2]課題を決めて、次の手順で、必要な情報を探し出してみよう。</p> <p>①学校図書館で、課題について百科事典などで調べ、どの内容をさらに掘り下げて調べかを決める。/②①の内容について、基本となる参考資料(参考文献)を探す。/③学校図書館で、関連する書架に当たり、必要な文献を調べる。/④学校図書館にある新聞や雑誌で、関連する情報がないかを調べる。/⑤書名目録(題名から関連するものを選ぶ)や件名目録(課題に関する項目を対照してみる)で、関連資料の所在を確かめる。</p> <p>[学習活動3]学習活動2で調べた課題について、集めた情報を、次の観点で検証してみよう。</p> <p>①集めた情報を整理しよう。/②集めた情報の中に、異なった考え方の本があれば、どのように違っているのかを比べてみよう。/③②で見た本の中から、事実として受け止めることのできる記述を探し出そう。</p> <p>[学習活動4]地域の図書館で、現代日本の短評型文学(短歌や俳句)について論じた本を探し、左のカードの形式で概要を書き出してみよう。</p>
6 報告文と発表の技術—レポートとプレゼンテーション—	・書き下ろし「1 調べたことを報告する」2 調べたことを発表する—プレゼンテーションの技術」	<p>[学習活動1]これまでに書いたレポートを持ち寄り、レポートという形式の特徴について、話し合ってみよう。</p> <p>[学習活動2]次の課題例の中から一つを選んで、その課題を考察するために、問題点を書き出してみよう。</p> <p>(課題例)・酸性雨について/・青年海外協力隊の活動について/・高齢化社会について/・IT革命について/・若者言葉と敬語について</p> <p>[学習活動3]書き出した問題点から、自分か「仮の主張」を考えてみよう。</p> <p>[学習活動4]「仮の主張」をめぐって、図書館での調べやインタビュー材で、材料を集めてみよう。</p> <p>[学習活動5]集めた材料を検討し、「仮の主張」の方向を変えるかどうかを決めよう(方向を変える場合には、改めて「仮の主張」を書いておく)。</p> <p>[学習活動6]集めた材料で、どのようにレポートを構成するかを考え、上のAまたはBのかたちで、構成案を書いてみよう。</p> <p>[学習活動7]構成案に従って、レポートを完成させよう。</p> <p>[学習活動8]完成させたレポートをもとに、プレゼンテーションの方法で、みんなに発表してみよう。集めた材料を、OHP、横道紙、ビデオや録音テープなどで発表する方法を工夫してみよう。</p>
7 紹介・案内の技術—学校紹介のパンフレットを作る—	・書き下ろし「1 情報を整理するために」2 パンフレットを作ろう」	<p>[学習活動1]いろいろなパンフレットを集め、その用途と関連させて、次の点について分析してみよう。</p> <p>・形骸の工夫/・構成の工夫/・見出し、図など視覚的な工夫/・文章表現の工夫</p> <p>[学習活動2]次の手順で、学校を紹介するパンフレットを作ってみよう。</p> <p>①パンフレットの企画を立てる。 ・だれのための。 ・どのような役割を持ったパンフレットにするか、話し合う。/・そのために、どのような情報が必要か、話し合う。/・大きさや形、紙質などをどうするか、話し合う。/・分担をどのようにするか、だれが何を取材するか、決める。</p> <p>②情報の取材をする。 ・分担に従って、取材し、紹介文を書く。</p> <p>③レイアウトを決め、パンフレットを完成させる。 ・レイアウトに従って各担当者が原稿をまとめ、それをもとに、見出しや写真などを決める。/・視覚的な工夫を加え、パンフレットを完成させる。</p> <p>[学習活動3]作ったパンフレットを展示し、それを見て、よい点・よい点などを指摘し合う。</p>
8 意見文を書く—マップ法と対話法—	・書き下ろし「1 意見文のためのガイド」2 意見文の内容を考えよう—マップ法を活用する」3 意見文の構成を考えよう—「対話法」を活用しよう」4 意見文を完成させよう」	<p>[学習活動1]次の課題例を参考にして、意見文を書いてみよう。</p> <p>(課題例)・ごみ問題について考える/・少年犯罪について考える/・情報化社会の功罪/・共生という考え方について/・高齢化社会をどうするか</p> <p>[学習活動2]取り上げた課題をマップ法で考えてみよう。</p> <p>①キーワードを定めて囲み、あからの線を引いてみよう。/②aからfまでで、該当する物事を、思い浮かべたり調べたりしながら書き込もう。その際、自分の感想や意見があったら、そのこともメモしておこう。/③本や白書(国の府省が、管理掌理する事業に関して、その現状を毎年報告する刊行物)、インターネットなどでも調べてみよう。/④反論を予想しよう。それに対する答えは、それまでの記述にあれば線で結んだり、新たに考えて付記したりしておこう。/⑤仮の結論を考えて書き込もう。</p> <p>[学習活動3]「対話法」で意見文を構成してみよう(学習活動2で作ったマップから必要な材料を選び、並べようとする順に、マップ上に①②③などの番号を付けよう。またこの時思いいついた事実や感想、意見等があれば書き足そう。不要な材料には×を付けておく。)</p> <p>[学習活動4]見学記録や説話の技術に注意して、意見文を完成させよう。また、書き終えたものを推敲してみよう。</p>
9 古典の表現に学ぶ—現代に生きる古典の表現—	・書き下ろし「1 古典の表現に親しもう」2 古典の表現は、現代にも生きている」	<p>[学習活動1]「枕草子」に参加してみるを手がかりにして、現代語の「ときどききると」「はらはらする」との違いについて、それぞれどんな場面で使うのか、具体的な例を挙げながら考えてみよう。</p> <p>[学習活動2]「枕草子」の「うつくしきもの」にならって、自分にとっての「うつくしきもの」を挙げてみよう。</p> <p>[学習活動3]古語辞典を見ると、昔の言葉の意味や、意味の変化について知ることができる。古語辞典で、改めて「うつくし」という言葉の意味やその変化について調べてみよう。</p> <p>[学習活動4]広告や新聞の見出しなどから、古典の表現や用語法が使われている例を探してみよう。</p> <p>[学習活動5]「私の言い分もかきず」に「よからぬこと」やらねばならぬこと」が、どのように古典の表現なのか説明してみよう。</p> <p>[学習活動6]ことわざや標語、新聞やテレビ広告、好きな歌の歌詞などで、七五調、五七調、七七調、五五調になっているものを探してみよう。</p> <p>[学習活動7]ことわざや標語、新聞やテレビ広告、好きな歌の歌詞などで、対句表現を使っているものを探してみよう。</p>

10 討論会を開く—主張の観点と根拠を考える—	・書き下ろし「1 討論はなぜ必要か」 「2 討論の方法」 「3 討論会を開こう」	<p>【学習活動1】討論はどのようなときに行われるかを考えてみよう。</p> <p>【学習活動2】次の課題の中から、討論のための題材として興味のある問題を選んでみよう。</p> <p>【問題例】テレビと新聞の、情報としての違いについて・食品添加物の功罪について・修学旅行の必要性について・都会の暮らしと田園の暮らしの違いについて</p> <p>【学習活動3】取り上げることに決めた問題について、「問題の設定」をしよう。それに基づいて、クラスを二つのグループに分けよう。</p> <p>【学習活動4】それぞれのグループで、問題を検討し、どんな論拠(事実)が必要かを考えてみよう。また、分担して、それを調べてみよう。</p> <p>【学習活動5】それぞれのグループで、説得力のある主張を展開するために、どの事実を選択し、どのような話の順序にするかを話し合ってみよう。</p> <p>【学習活動6】自分たちの主張を補強するために、相手への有効な質問を準備しよう。また、相手からの反論を予想して、その答えを考えておこう。</p> <p>【学習活動7】次の討論会の進め方を参考にして、討論会を開いてみよう。</p> <p>◇肯定派の主張/◆否定派の主張/◇肯定派に対する質問/◆肯定派に対する質問/◇答えや反論などの検討/◇肯定派による答えと反論/◆否定派による答えと反論/論理の再検討とまとめ/◇肯定派のまとめ/◆否定派のまとめ</p> <p>【学習活動8】討論会を通して、自分の考えが変化したところがあれば、発表してみよう。</p>
11 広告の表現技術に学ぶ—広告とレトリック—	・書き下ろし「1 広告とレトリック」 「2 ポスター広告を作ろう」	<p>【学習活動1】「空気が凶悪になってきた。」のキャッチフレーズとボディコピーについて、工夫していると思われることを挙げてみよう。</p> <p>【学習活動2】新聞や雑誌から広告を集め、そのキャッチフレーズやボディコピーでもおもしろいと思ったものを発表してみよう。</p> <p>【学習活動3】集めた広告を、「アイドマ」の視点から批評してみよう。</p> <p>【学習活動4】グループで、部活の部員募集、文化祭での発表や展示への案内、ボランティア活動への参加を募るなどの課題で、ポスター広告を作ってみよう。</p> <p>①原形情報を書き抜き、請求対象を決め、どのような表現方法をとるか話し合ってみよう。/②グループでアイディアスケッチを作ろう。/③アイディアスケッチに従って、ポスターを完成させよう。</p> <p>【学習活動5】完成した広告を発表し、よいところを見つけ合おう。</p>
12 高校生からのメッセージ—原稿をもとにしたスピーチ—	・書き下ろし「1 スピーチを深めよう」 「2 「高校生からのメッセージ」を発表しよう」	<p>【学習活動1】スピーチの内容を考える場合、どのようなことに注意する必要があるか、冒頭の単元を思い出し、書き出しておこう。</p> <p>【学習活動2】本文の三つの視点のうち、どの方向で話しようと思うか、考えてみよう。</p> <p>【学習活動3】スピーチの内容について概要を決め、題名を考えよう。</p> <p>①スピーチの骨子の中に置く、自分の「体験」はどんなものがよいのか、考えてみよう。/②具体的な題材や体験をどのように肉付けすればよいのか、考えてみよう。/③題名と話の構成を決め、メモを作ってみよう。</p> <p>【学習活動4】スピーチの全文を、千文字〜千五百字で、原稿化してみよう。</p> <p>【学習活動5】グループで、原稿を読み合い、よいところ、気になるところを挙げてみよう。</p> <p>【学習活動6】それぞれの「高校生からのメッセージ」を発表しよう。</p>

④明治書院(国 I 004)			
(1)目次における単元名	(2)教材名と筆者名	(3)(2)に付随する「課題」	
1 表現を考える—話すことと書くこと—	・斎藤茂太「会話が作る人間関係」	【学習の手引き】 1 筆者は、人間生活において言葉がどういう意味を持っていると考えているか、箇条書きの形でまとめてみよう。 2 筆者の論法によると、話し下手の人はどのように考えれば気が楽になるのだろうか、簡潔にまとめてみよう。	
	・豊田隆史「『書く』とは「考える」こと」	【学習の手引き】 1 筆者は、「文章を書く」ということとどのような意味を感じているか、本文中から書き出してみよう。 2 筆者は、読者に対してどのような文章を書くことを勧めているのか、箇条書きの形でまとめてみよう。	
2 聞き手を引き付ける—自己紹介とスピーチ—	・書き下ろし I 自己紹介をしよう	【演習】どちらが、聞いている人の印象に残るだろうか。また、なぜ印象に残るのか、考えてみよう。 【演習1】自分の名前について、その文字の意味や由来を説明する文章を書いてみよう。 2 1 で書いた文と、次の言葉から連想する話と、結び付けものはないだろうか、考えてみよう。 小学校・中学校での思い出/忘れられない言葉/家族の性格や趣味 3 聞き手/自分を強く印象付けるためには、2で結び付けた話とどのような順序で話せばいいだろうか、構成を考えてみよう。 4 3で考えた構成に従って自己紹介してみよう。	
	・書き下ろし II スピーチをしよう	【演習】このスピーチで、A君は結論として何を主張しているか、主張の部分を指摘してみよう。 【演習1】主張を分かってもらうために、A君はどんな工夫をしているだろう。 【演習2】戦争・環境問題・医学の進歩などを例にして、科学は人類を幸せにしているだろうか、考えてみよう。 【演習3】先に考えた自分の意見(主張)について、人に納得してもらえるように内容をより具体的にしてみよう。 【演習4】先の「演習」で考えた具体例(戦争・環境問題・医学の進歩など)にかかわる科学の役割などを用いて、アウトライン・メモを書いてみよう。 【演習5】「科学は人類を幸せにするか」というテーマで、それぞれスピーチをしてみよう。	
3 心を伝え、事実を伝える—手紙・案内・連絡—	・書き下ろし I 手紙	【演習】次の各文を、()内の相手にあて出す手紙文としてふさわしい、改まった表現に書き換えてみよう。 ※文は省略=執筆者 【演習1】次の条件に合わせて実際に手紙を書いてみよう。 ①用件 アンケートを依頼する。/②相手 地域のボランティア団体	
	・書き下ろし II 案内と通知	【演習】次の条件に合うように、案内を書いてみよう。 部活動で対外試合が行われるので、卒業した先輩に応援に来てくれるように呼び掛けろ。スポーツの種類や試合の日時、場所は各自で設定する。	
	・書き下ろし III 連絡	【演習1】委員会やクラブ活動の連絡を教室で伝える場合の原稿またはメモを用意して、クラスで連絡を行ってみよう。 2 聞く側は連絡内容を正確に聞き取ることができたかどうかを、相互で確認してみよう。 3 同じ内容を校内放送で伝える場合、どのような点に気を付けたらいいかを話し合ってみよう。	
4 情報を生かして—記録・報告・発表—	・書き下ろし I 私たちと情報	×	
	・書き下ろし II 情報を組み立てる	【演習】日ごろ使っている言葉について連想メモを作ってみよう。 【演習1】前の「演習」で作った連想メモをもとに、問題を疑問文の形でまとめ、どの問題に取り組むか決定しよう。 【演習2】決定した問題について図書館で調べ、カードをとってみよう。 【演習3】決定した問題を解決するためにアンケートやインタビューが必要であれば、取り組んでみよう。	
	・書き下ろし III 記録・報告をまとめる	【演習1】前の「演習」で行ったアンケートやインタビューを、記録にまとめてみよう。 【演習2】「演習」で決定し、ここまで解決に取り組んできた問題について、報告としての組み立てを箇条書きで書いてみよう。 【演習3】「演習」でまとめた組み立てをもとに報告を作成してみよう。 【演習4】図書館で言葉の話題にした本を調べ、興味を持った本の紹介文を、八〇〇字〜二〇〇字程度で書いてみよう。 2 作成した本の紹介文をもとにしてクラスの皆に本を紹介してみよう。	
	・書き下ろし IV 口頭による発表の方法	【演習】次の①・②のどちらかを選び、プレゼンテーションを経験してみよう。また、それについて、次の項目に従って点検してみよう。 ①私が住んでいる町/②私が大切にしているもの 【項目】口頭で分かるように伝えられたか/品物や資料は適切に活用できたか/聞き手の反応を確かめられたか	
5 論理で説得する—意見文を書く—	・書き下ろし I 論理的な文章とは	【演習】右の文章は、どのようなことを主張しているのか、簡潔にまとめよう。 【演習1】例文が右に指摘したような組み立てになっているか、次の方法で確認してみよう。 「自分1人しかでないこと」について記述された部分に青色で傍線を付け、「他人と同じこと」について記述された部分に青色で傍線を付ける。 【演習2】次の文章は、論を進める上でどのような特徴があるか、先の例文と比べよう。また、文章に論理性や説得力を持たせるうえで、どのような工夫がなされているか、話し合ってみよう。 【演習3】右の例文を、筆者の意見や主張が述べられている部分と、客観的な情報が示されている部分とに分けてみよう。そして、それぞれがどのように関連しながら全体を構成しているか、整理してみよう。 2 文章を論理的に説得力を持って書き進めるには、どのようなことに注意すればいいか、二つの例文を参考にしながら、まとめてみよう。	

	<p>・書き下ろし Ⅱ 意見文を書く</p>	<p>〔演習〕意見文を書くに当たって、どのような問題について書くかと思うが、幾つか挙げてみよう。また、次に挙げる問題の中から、興味のあるものがあつたら、その問題について情報を集めてみよう。 ※問題は省略=資料作成者</p> <p>〔演習〕どのような問題について意見文を書くことにしたか、クラスで発表してみよう。また、どのような方法で材料を整理したか、クラス内でお互いに情報交換をしてみよう。</p> <p>〔演習〕自分が集めた材料の中で、意見文を書くのに有効なものを、幾つか簡条書きにして書き出してみよう。</p> <p>〔演習〕自分が意見文の中で言いたいこと、主張したいことを短文、または短い文章にしてみよう。</p> <p>〔演習〕右に挙げた三段構成で書くために、それぞれの段落で各内容を短文で表し、自分の意見文の概略を確認しよう。その際、特に真ん中の段落で書く「例示・証明」の部分について、具体的な内容を含んだ短文を並べ替えて、どのようにすれば説得力のある意見文になるか、工夫してみよう。</p> <p>〔演習〕下書きの時点で、クラスで(あるいは班内で)発表し合い、お互いのいい所や足りない所を指摘し合おう。その上で、出された意見を参考に、自分の文章の手直しをしてみよう。</p> <p>〔演習〕原稿用紙を使って実際に書くときに間違いやすい点を、お互いの原稿を見合いながら、幾つか挙げてみよう。</p> <p>〔演習〕書き終った意見文をお互いに発表し合せて、「説得力」・「独自性」・「論理性」のそれぞれについて、どれが強くどれが弱いかを、評価し合ってみよう。</p>
6 自分の考えを持って一話し合いからディベートへ	<p>・書き下ろし Ⅰ 考えを明確にして議論する</p>	<p>〔演習〕今まで自分が参加した議論のうち、どうい問題について、話し合い・討論を行ったか、考えてみよう。</p> <p>〔演習〕なぜ、右の①から④の条件が話し合いにとって必要なのかを考え、説明してみよう。</p> <p>〔演習〕次の①～③のテーマの中から一つ選び、バズセッションをしてみよう。</p> <p>①おれの気持ちを伝えるには、手紙がよいか、電話がよいか。/②ゴミを減らすために、私たちがすべきことは何か。/③上級生に対して敬語を使うべきか。</p> <p>〔演習〕ディベートと、一般的な討論とは、どこが違うか説明してみよう。</p> <p>〔演習〕自分たちは、どのような論議でディベートがしてみたいか話し合い、肯定側・否定側に分かれて立論を組み立ててみよう。</p> <p>〔演習〕先の「演習」で作った立論をもとに、実際にスピーチをしてみよう。その際に、聞き手に言いたいことが正確に伝わっているか、確認してみよう。</p> <p>〔演習〕1 次の論議を一つ選び、ディベートをしてみよう。</p> <p>①日本の自動車普通運転免許取得可能年齢は二十歳に引き上げるべきである。/②すべての小学校で英語教育を行うべきである。/③自転車に乗る者は、全員ヘルメットを装着すべきである。</p> <p>2 ディベートを行った後、ディベートの板の立場を離れて、自分自身の本音の立場に戻って、論議についてどう考えるか、意見文を書いてみよう。</p>
7 日本語を豊かに一語彙と表現の移り変わり	<p>Ⅰ 日本語の語彙と変遷</p>	<p>〔演習〕1 右の文章に取り上げられた「たのし」「かなし」が、奈良時代から現代まで、どのような意味で使われてきたか、古語辞典などで調べてみよう。</p> <p>2 「あはれなり」とをかしは「源氏物語」や「枕草子」に多く用いられている言葉である。現代では、「あはれだ」「おかしい」と言う形で使われている。</p> <p>①古語辞典を引いて、「あはれ」とをかしが、平安時代から現代までどのような意味で使われてきたか、調べてみよう。/②注釈や現代語訳のついた「源氏物語」や「枕草子」を調べて、それぞれの語がどのように使われているか、調べてみよう。</p> <p>〔演習〕1 図書館で参考書などを調べて、どのような漢語が日本語として定着しているか、調べてみよう。その際、次のように分けて調べてみよう。</p> <p>①一字で単語となっているもの。/②二字以上で熟語を作っているもの。/③大和言葉と結びついて単語になっているもの。</p> <p>2 日本で作られた漢語にはどのようなものがあるか、調べてみよう。</p> <p>3 「ササギ」や「クッキー」のように日本語化するに当たって後に母音を付け加えた外来語を探してみよう。</p> <p>〔演習〕1 次の故事成語のいわれを調べてみよう。 ※例は省略=資料作成者</p> <p>2 新聞を読んで、その中に使われている故事成語らしい言葉を集めて、辞書で確認し、それぞれの意味を調べてみよう。</p> <p>〔演習〕1 西欧諸国から入ってきた外来語で現在、日常的に用いられているものを調べ、国別に分けてみよう。</p> <p>2 最近使われている外国語で、外来語と言えるかどうかという単語を集めて、日本語でそれぞれの意味を分かりやすく説明してみよう。</p>

⑤第一学習社(国 I 006)			
(1)目次における單元名	(2)教材名と筆者名	(3)(2)に付随する「課題」	
表現の基礎	・加藤英俊「自己表現」	<p>〈ページ下〉</p> <p>〔問〕「人間の内側の世界を、外に向かって翻訳する」とは、どういうことか、わかりやすく説明してみよう。</p> <p>〔問〕筆者の考える「コミュニケーション楽天主義」とはどういうものか、まとめてみよう。</p> <p>〔問〕「水槽」に穴が空くことは、具体的にどのような状態をたとえているか、説明してみよう。</p> <p>〈單元末〉[学習]</p> <p>〔一〕「人間の内側の世界」と「言葉」との関係について、本文の内容に沿ってまとめてみよう。</p> <p>〔二〕「自らを表現する能力」はなぜ必要なのか、そして、うま「自己表現」をするためにはどのようなことを心がければよいのか、話し合ってみよう。</p> <p>〔三〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>	
・書き下ろし「文章の書き方」		<p>〈單元末〉[学習]</p> <p>〔一〕右の作文例について、主題は何で、構成はどうなっているか、考えてみよう。</p> <p>〔二〕最近経験した身近な出来事の中から、適当な題目や題材を選び、四百字程度の文章を書いてみよう。</p> <p>〔三〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>	
・書き下ろし「わかりやすい表現」		<p>〈單元末〉[学習]</p> <p>〔一〕次の表現のどこに問題があるかを指摘し、わかりやすく適切な表現に改めてみよう。 ※問省略=資料作成者</p> <p>〔二〕副詞の呼応には、本文中に例としてあげたもののほかにどのようなものがあるか、調べてみよう。</p> <p>〔三〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>	
・書き下ろし「表現の工夫」		<p>〈單元末〉[学習]</p> <p>〔一〕本文中の「比喻」と「擬声語・擬態語」について、傍線部のような表現があるのとないのでは、表現効果上どのような違いがあるか、考えてみよう。</p> <p>〔二〕次の表現の工夫を考えてみよう。 ※文章省略=資料作成者</p> <p>〔三〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>	
・斎藤美津子「言葉のキャッチボール」		<p>〈ページ下〉</p> <p>〔問〕「ボールを独り占めにして他人に達さない」「ボールを受け取ろう」といとは、それぞれどういうことをたとえているのか、説明してみよう。</p> <p>〔問〕「相づちを打つ」効果は何か、考えてみよう。</p> <p>〈單元末〉[学習]</p> <p>〔一〕筆者が述べる「目的のない会話」の効用を整理してみよう。</p> <p>〔二〕「目的のある会話」を上手に進めるためのアドバイスのうち、とくに注意したらよいと思うことを、「聞くとき」「話すとき」の両面から検討してみよう。</p> <p>〔三〕筆者は、同音異義語について、次のように述べている。(※文例省略=論文執筆)右にあげられている同音異義語のうち、言い換えの区別ができるものを指摘してみよう。また、言い換えのほかに、どのような誤解を防ぐ工夫があるか、考えてみよう。</p> <p>〔四〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>	
〔言葉を豊かに〕① 藤原与「理想的な日本語生活をー理と情ー」		<p>〈ページ下〉</p> <p>〔問〕「大原美術館は、どちらでしょうか。」を早く言うことが、なぜ「理の尊重」になるのか、考えてみよう。</p> <p>〔問〕「情は自然にじまることができ」例を、いかに述べられている電話の対応が以外にいくつあげてみよう。</p> <p>〈單元末〉[学習]</p> <p>〔一〕筆者は、「理」の表現と「情」の表現との違いをどのように考えているか、まとめてみよう。</p> <p>〔二〕筆者は、「理の表現と情の表現とをよく調和させる」ためにはどのようなことを心がけることが必要だと言っているか、まとめてみよう。</p> <p>〔三〕次のような場合、「理と情を調和させる」ためには、相手に対して、どのような言い方をすればよいのか、考えてみよう。 ※問省略=資料作成者</p> <p>〔四〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>	
〔言葉を豊かに〕② 大野浩「漢字と日本文化」		<p>〈ページ下〉</p> <p>〔問〕「ヨーロッパ語を一度漢字に書き換え」た言葉の例を、調べてみよう。</p> <p>〔問〕「うつくし」「あそぶ」を漢字で書くことにより、言葉の意味がどのように変化したか、調べてみよう。</p> <p>〈單元末〉[学習]</p> <p>〔一〕日本語の中で、大和言葉と漢語はそれぞれどのような役割を果たしているか、筆者の考えをまとめてみよう。</p> <p>〔二〕次の各文の()に、「新たに聞く」や「始める」「始める」という意味を持った適切な漢語を入れてみよう。 ※問省略=資料作成者</p> <p>〔三〕例にならって、四字の漢語をいくつか並べて自己紹介をしてみよう。</p> <p>〔四〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>	

表現の実践(一)― 通信・案内・伝達―	・外山道比古「手紙の心」	<p>〈ページ下〉</p> <p>【問】「ナシのつぶて」の意味を調べてみよう。</p> <p>【問】「どういふ点を『悪い人生』と言っているのか、考えてみよう。</p> <p>【問】「電話のお礼など、お礼と認めない、という人もいる」のはなぜか、考えてみよう。</p> <p>【問】「こういふ小さなこと」とはどういうところか、考えてみよう。</p> <p>【問】「正月らしいはがき」とはどういうものか、考えてみよう。</p> <p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】手紙を書くうえで注意がどのように述べられているか、整理してみよう。</p> <p>【二】「手紙の心」とはどのようなものか、本文の例を通して考えてみよう。</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・書き下ろし「手紙を書く」	<p>〈ページ下〉</p> <p>【問】「自分ではなく電子メールを許した」とはどういうことか、考えてみよう。</p> <p>【問】「彼を殺してしまった」には、漱石のどんな気持ちが見られているか、考えてみよう。</p> <p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】それぞれの例文には、相手や目的に応じてどのような配慮が見られるか、考えてみよう。</p> <p>【二】次の中から一つを選び、手紙を書いてみよう。</p> <p>1 クラス会のお知らせ/2 入院中の先生へのお見舞い/3 先輩へのお礼</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・山口弘明「プレゼンテーションの必要性」	<p>〈ページ下〉</p> <p>【問】「NASAの役割や仕事ぶりを国民に十分認識してもらうことが最も大切だ。」という結論になったのはなぜか、考えてみよう。</p> <p>【問】「自社製品を認めてもらうための努力が、『製品の専門性よりもはるかに重要な案件』になるのはなぜか、考えてみよう。</p> <p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】プレゼンテーションの重要性は何か、本文の具体例に即して整理してみよう。</p> <p>【二】高校生活の中で、プレゼンテーションが必要なのはどのような場合か、考えてみよう。</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・書き下ろし「紹介文・宣伝文を書く」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】吹奏楽部の紹介は、どんな点が優れているか、考えてみよう。</p> <p>【二】次の中から一つを選び、紹介の文章を書いてみよう。また、書いた文章を、「スピーチのしかた」を参考にして発表してみよう。</p> <p>1 自分のクラスを他のクラスの生徒たちに紹介する文章/2 中学校のクラス会で、自分の高校を紹介する文章/3 文化祭または体育祭を他校に紹介する文章</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	[言葉を豊かに]① 大石初太郎「敬語の分類」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】次の各文中の敬語を指摘し、それを分類してみよう。 ※問省略=資料作成者</p> <p>【二】次のかたかなの表現の中から、最も適当な言い方を選んでみよう。 ※問省略=資料作成者</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
表現の実践(二)― 記録・報告―	・「言葉を豊かに」② 池上彰「二つの言葉が一緒になって」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】次の表現は、よく似た二つの言葉を混同しておかしい言い方となった例である。正しい表現は何か、考えてみよう。 ※問省略=資料作成者</p> <p>【二】次のそれぞれの慣用語は、aとどちらの表現が正しいか、考えてみよう。 ※問省略=資料作成者</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・記録文・畑正憲「アカテガニの大行進」	<p>〈ページ下〉</p> <p>【問】産卵の描写にどのような表現の工夫がされているか、考えてみよう。</p> <p>【問】「一つの実験」の記述は、どういふ効果をもたらしているか、考えてみよう。</p> <p>【問】最後の段落は、この文章全体でどういふ役割を果たしているか、考えてみよう。</p> <p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】例文では、つぎのような点はどのように記録されているか、書き出してみよう。</p> <p>1 アカテガニに出会った時間/2 アカテガニに出会った場所/3 アカテガニが産卵している場所/4 アカテガニが産卵している様子</p> <p>【二】例文を読んで、筆者の観察がどのような点で優れているか、考えてみよう。</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・書き下ろし「聞き書きを書く」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】生徒作品の中で、次に該当する箇所を指摘してみよう。</p> <p>1 看護婦としての誇りがよくうかがえる段落/2 患者に対する温かい心遣いがうかがえる段落</p> <p>【二】身近な人から、次のいずれかのテーマで話を聞いて、聞き書きを書いてみよう。 ※テーマ省略=資料作成者</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・書き下ろし「レポートを書く」	<p>〈ページ下〉</p> <p>【問】「聞き手の理解を十分に助ける」資料を作るためには、どのようなことに気をつけたらいいか、考えてみよう。</p> <p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】生徒作品の中から、内容や構成面で工夫されている点をあげてみよう。</p> <p>【二】次のいずれかのテーマで調査・研究をし、その結果をレポートにまとめて発表してみよう。 ※テーマ省略=資料作成者</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	[言葉を豊かに]① 書き下ろし「方言と共通語」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】「言葉は猫である」を、本文の例にならって、自分たちの住んでいる土地の言葉で表現してみよう。</p> <p>【二】自分たちの住んでいる土地の方言の中で、残しておきたい言葉をあげてみよう。</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
表現の実践(三)― 意見・主張―	・「言葉を豊かに」② 「外来語と私たちの生活」	<p>〈ページ下〉</p> <p>【問】どのような配慮が必要か、考えてみよう。</p> <p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】次の各分野ではとくに多くの外来語が用いられている。それぞれに関連する外来語を調べてみよう。</p> <p>1 ファッション・服飾/2 医学・健康/3 コンピューター・科学技術</p> <p>【二】外来語がいくつか用いられた広告を雑誌や新聞から探し、そのねらいや効果などを考えてみよう。</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・書き下ろし「意見文を書く」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】右の生徒作品の構成を分析し、主題とその根拠を指摘してみよう。</p> <p>【二】次の文章は、新聞の投書欄に掲載されたものである。この投書に対してどのように考えるか、自分の意見を四百字程度で書いてみよう。 ※文章省略=資料作成者</p> <p>【三】次にあげられるテーマから一つを選んで、六百字程度の意見文を書いてみよう。 ※テーマ省略=資料作成者</p> <p>【四】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・本川達雄「時間の見方を変えるとき」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】右の文章は、もともと三段落に分かれ、次のような小見出しがつけられていた。これを参考にして、それぞれの段落の内容を要約してみよう。 ※小見出し省略=資料作成者</p> <p>【二】右の文章の主題とその論証の仕方进行分析してみよう。また、右の文章が意見文として優れている点を話し合ってみよう。</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
	・書き下ろし「ディベートをする」	<p>〈単元末〉[学習]</p> <p>【一】「小・中学校の給食は廃止すべきである」の肯定側の立場から、否定側に対する反対意見を考えてみよう。</p> <p>【二】次のいずれかのテーマで、ディベートで討論してみよう。 ※テーマ省略=資料作成者</p> <p>【三】次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>

表現の探求	・書き下ろし「日本語の特徴」	<p>〈単元末「学習」〉</p> <p>〔一〕次の状態を表す語をあげてみよう。</p> <p>1 泣く/2 雨が降る/3 走る</p> <p>〔二〕次の文章は、『吾輩は猫である』の冒頭とその英訳である。両者を比較し、とくに人称代名詞に着目して、日本語の特徴を考えてみよう。 ※文章省略=資料作成者</p> <p>〔三〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
・倭万智「トカ弁」 ・婉曲表現の現在	・「トカ弁」	<p>〈ページ下〉</p> <p>〔問〕「婉曲」の意味を辞書で調べてみよう。</p> <p>〔問〕「あたり」「でも」と「とか」との「似たような役割」はどういう点か、まとめてみよう。</p> <p>〔問〕「すてきなあとと思う」のは、どういう点か、まとめてみよう。</p> <p>〔問〕「日本人の本質的な部分」とはどういうものか、考えてみよう。</p> <p>〈単元末「学習」〉</p> <p>〔一〕筆者が指摘する、「とか」「みたいな」「○○○人・○○○じゃないですか」という表現の特徴をそれぞれまとめ、共通点を整理してみよう。</p> <p>〔二〕「若者言葉」に見られる婉曲な表現は、まだまだある(二七・力)と筆者は指摘している。</p> <p>1 自分たちが使う日常的な表現を振り返って、そのような表現があればあげてみよう。/2 1であげた表現の背後にある話し手の心理について、分析してみよう。</p> <p>3 「表現の形は変わっても、……ますます強烈に思っているようだ。」「(二八・5)と言う筆者の見解に対してどう考えるか、自分の意見を発表してみよう。</p> <p>〔四〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>
・佐竹昭広「古語雑談—「やさし」の語史」	・「やさし」の語史	<p>〈ページ下〉</p> <p>〔問〕「やさしい」と「やさしい」の用法を、自分たちの生活の中で、確かめてみよう。</p> <p>〔問〕この狂言のおもしろさはどこにあるか、考えてみよう。</p> <p>〔問〕「やさし」の古義がある一方で、「簡単に手軽い」という意味の「やさし」があることを、確認してみよう。</p> <p>〈単元末「学習」〉</p> <p>〔一〕「やさし」の意味の時代的変遷を、本文に即してまとめてみよう。そして、それが、「恥じらいの美学」と見なされる経緯について、考えてみよう。</p> <p>〔二〕次にあげる語は、現代語と古語との間で、意味の変遷が見られる。どのように意味が異なるか、調べてみよう。 ※ 語省略=資料作成者</p> <p>〔三〕次のかたかなを漢字に直してみよう。 ※問省略=資料作成者</p>

⑦旺文社(国 I 005)

(1)目次における単元名	(2)教材名と筆者名	(3)(2)に付随する「課題」
一章 日本語を学ぶ	・書き下ろし「1 世界の中の日本語」 「2 日本語を学ぶ」	<p>〈ページ下〉</p> <p>ベルギー、カナダなどの言語事情を調べてみよう。</p> <p>★「アイデンティティ」という単語を辞書で引いてみよう。言葉の意味だけでなく、辞書の用例などを参考にして、この語をどう使ったらよいか、考えてみよう。</p> <p>その際、使用した辞書について、書名、編著者名、出版社名、何版か、などを記録しておこう。</p> <p>〈単元末「学習」〉</p> <p>一 日本語にもさまざまな方言がある。自分の言葉がどのような方言か、共通語(標準語)と同じか、違うか、話し合ってみよう。</p> <p>二 日本語の国際性ということについて、いろいろな観点から話し合ってみよう。</p> <p>三 国語を学ぶことの意義について話し合ってみよう。</p>
二章 話すことと聞くこと	・書き下ろし「1 話すことと聞くこと」 「2 話すこと」 「3 話す時に注意すべきこと」 「4 聞くこと」 「5 目的や場面に応じた話し方」	<p>〈ページ下〉</p> <p>★ラジオやテレビが、私たちの生活にどのような影響を及ぼしているか、話し合ってみよう。</p> <p>★話し手と聞き手との役割の交換が、うまくいっている場合とそうでない場合とについて、話し合ってみよう。</p> <p>★「おしいい！」という言葉を、いろいろな声の調子や表情などで言ってみよう。</p> <p>★「エー」とか「ウーン」などのほかに、語の筋に関係のない、どんな語句が使われるだろうか。</p> <p>★「あれ」「それ」といった代名詞を使って話をし、うまくいった場合と、失敗した場合とについて話し合ってみよう。</p> <p>★童話や言語に繰り返しが多い理由は、どんな点にあるのだろうか。</p> <p>★「そんなこと、私はどうしても許せません」という表現を、どこを強調したいかを考えて、言ってみよう。</p> <p>★「間」の働きについて考えてみよう。</p> <p>★「コウコウ」にはどんな同音語があるか、書き出してみよう。</p> <p>★同音語によって誤解した例を話し合ってみよう。</p> <p>★「書いてる」「笑ってる」など、くだけた言い方の例を挙げてみよう。</p> <p>★メモを取る時、必ず書き留めておかなければならないことには、どんなことがあるだろうか。</p> <p>★評価をする際、他に、どんな点に注意したらよいか。</p> <p>★話す速度に注意して、人の話を聞いてみよう。</p> <p>★一分間スピーチをしてみよう。</p> <p>★他の人のスピーチについて、評価をしてみよう。</p> <p>〈単元末「学習」〉</p> <p>一 「千差万別」などの四字熟語の例をいくつか挙げて、語構成を調べてみよう。</p> <p>二 コミュニケーションに関することわざを集めて、日本人が言葉によるコミュニケーションをどのようにとらえていたか、話し合ってみよう。</p> <p>三 論議を選んで、ディベートをしてみよう。論議としては、例えば、次のような、私たちの日常生活の中で問題とされていることを取り上げてみよう。</p> <p>○九月新学期制をとるべきである。/○サマータイム制を導入すべきである。/○もはや書物は、必要ではない。/○ゴミ収集を有料化すべきである。</p>
三章 要約文を作る	・書き下ろし「1 要約文と新聞の記事」 「2 要約文の実例」	<p>〈ページ下〉</p> <p>★リードのある新聞を読んで、リードと本文の関係を調べてみよう。</p> <p>★「手に負えない」「表付ける」という語句を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>★新聞の社説面の記事などを読んで、その文章の五W-Hを指摘してみよう。</p> <p>★五W-Hを生かした短文をいくつか作ってみよう。</p> <p>★「西域」の読み方を、調べてみよう。</p> <p>★「割り切れない」「背影が寒くなる」という語句を使って、それぞれ短文を作ってみよう。</p> <p>★「キーワード」について辞書で調べ、その働きについて話し合ってみよう。</p> <p>★「対照的」「対照」と同音になる語を探してみよう。</p> <p>★「この要約文」と本文を比較して、どのような箇所が省略されているか、調べてみよう。</p> <p>★新聞のコラムを読んで、その要約文を作ってみよう。</p> <p>〈単元末「学習」〉</p> <p>次の文章の要約を、約二〇〇字と約一〇〇〇字の二通り書いてみよう。 ※文章は省略=執筆者</p>
四章 文章の構成	・書き下ろし「1 文章を書く手順」 「2 文章構成の実例」	<p>〈ページ下〉</p> <p>★「私の趣味」という題で作文を作るとして、その材料をできるだけ集めてみよう。</p> <p>★「根ざす」という語句を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>★実際にインターネットを用いてホームページを検索し、どのような文献があるか調べてみよう。</p> <p>★「自然の中に生かされている自分」とは、どういうことか、考えてみよう。</p> <p>★「類似した内容」とはどれか、また、「補う必要のある部分」とはどこか、考えてみよう。</p> <p>★この骨組みと、初め(40ページ12行～16行)の骨組みとを比較してみよう。</p> <p>★表紙裏を参照しながら、「起承転結」について話し合ってみよう。また、「起承転結」の例を、そのほかの漢詩から選び出してみよう。</p> <p>★新聞の社説で、結論がどこに示されているか調べてみよう。</p> <p>★メモを作って、みんなの前で「三分間スピーチ」をしてみよう。</p> <p>〈単元末「学習」〉</p> <p>一 次の文章を、本文で示したような手順で書く際の構成案を作ってみよう。41ページ行～42ページ15行の「例」を参考にして考えてみよう。 ※文章省略=執筆者</p> <p>二 「一」の例文に対する意見や感想を、本文中に示した手順に従って一〇〇字ぐらいで書いてみよう。</p>

第五章 文の整え方	<p>・書き下ろし「1 長すぎる文」「2 主語・述語の関係」「3 修飾・被修飾の関係」「4 助詞・助動詞の使い方」</p>	<p>〈ページ下〉</p> <p>☆次の文は、思ったままをだらだらと書いたために、整わない文になっている。短く切って、きちんとした文に書き直してみよう。 ※文は省略=執筆者</p> <p>☆この例文を書き直してみよう。</p> <p>☆主語と述語の対応に注意しながら、この例文を書き直してみよう。</p> <p>☆主語の位置はどこがよいか。</p> <p>☆この例文を、本文中の指摘に基づいて、正しく書き直してみよう。</p> <p>☆「木に竹をつく」のような、主語が明示されていない慣用句、ことわざ類を集めてみよう。</p> <p>☆それぞれどんな意味に解釈できるか話し合ってみよう。また、二つの例文を、誤解を招かないように、書き直してみよう。</p> <p>☆修飾後の係り先を考えながら、三つの文を書き直してみよう。</p> <p>☆この例文を、本文中のように一応直したが、一つの文の中にいろいろなことを詰め込んでいるため、まだ、すっきりした文とはいえない。二つの文に分けて、書き直してみよう。</p> <p>☆助詞と助動詞の呼応に注意しながら、この例文を書き直してみよう。</p> <p>☆助詞と動詞の関係に注意しながら、この例文を書き直してみよう。</p> <p>☆「が」を文末に使う、「私は山田ですが」などと言うと、この言い方にはどのような効果があるか、話し合ってみよう。</p> <p>☆「か」の使い方に注意しながら、二つの例文を書き直してみよう。</p> <p>〈单元末「学習」〉</p> <p>次の文の、どこに問題があるか指摘し、それぞれ整った文章に書き改めてみよう。 ※文は省略=執筆者</p>
第六章 推敲	<p>・書き下ろし「1 推敲の目的」「2 推敲の実践」</p>	<p>〈ページ下〉</p> <p>☆「不」が上に付く漢語の例を集め、「不」の働きを考えてみよう。</p> <p>☆「推敲」という語を、この語のできたいわれも含めて、辞書で調べてみよう。</p> <p>☆交ぜ書きで書かれた言葉を探してみよう。</p> <p>☆同音語の例を集めてみよう。</p> <p>〈单元末「学習」〉</p> <p>次の文章は、ある高校生が「棟梁の職六代目で暮に」という新聞の投書を読んで、その感想を書いたものである。「2 推敲の実践」を参考にして、この文章を書き直してみよう。 ※文章省略=執筆者</p>
第七章 手紙	<p>・書き下ろし「1 手紙の種類」「2 手紙の文章と形式」「3 手紙の用語とその使い方」「4 型を決めて書く」</p>	<p>〈ページ下〉</p> <p>☆「静風柳多留」の句について、次のことを考えてみよう。</p> <p>1 「風」の意味を辞書で調べてみよう。/2 「文」の読み方で、どのように意味が変わるか。/3 「生まれた」の主語(動作主)はだれか。/4 この句のおもしろさはどこにあるか。</p> <p>☆手紙とおいさづの、形式の上で、似ている点をまとめてみよう。</p> <p>☆「書き出しの言葉」と「結びの言葉」の呼応で、「拝啓—敬具」以外の例を挙げてみよう。</p> <p>☆「らうらう」の中の「手紙の慣用語句」の中から、男女差のある用語を選んでみよう。</p> <p>☆「お世話いただき」のような、「お—いただく」という形式を持つ敬語の働きを調べてみよう。また、この形式を持つ敬語を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>☆「お—あそばさす」と「お—申し上げる」の相違を、(だれがその動作をするか)という点で、考えてみよう。また、これらの形式を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>〈单元末「学習」〉</p> <p>一 今年になってから手紙を書いたり、受け取ったりした人は、どんな手紙を何通くらい出したりもらったりしたか話し合ってみよう。</p> <p>二 実際に受け取った手紙で支障のないもの(ダイレクト・メールも含む)があれば、それについて次のことを検討してみよう。</p> <p>(1)封筒やはがきの宛名や差出人はどのように書かれているか。/2手紙の構成や用語はどうか。</p> <p>三 本文中の問答会の通知(78ページ)を、もっと丁寧な書き方に改めてみよう。</p> <p>四 次の(1)～(7)の文を順序よく並べ替えて、一通の手紙を作ってみよう。出来上がったら、その構成を確かめてみよう。 ※文省略=執筆者</p>
第八章 記録・報告	<p>・書き下ろし「1 記録・報告の役割」「2 情報化の時代」「3 情報の収集」「4 情報の整理」「5 情報の伝え方」</p>	<p>〈ページ下〉</p> <p>☆「子守」のような、構文の語を挙げてみよう。</p> <p>☆次の記事は、明治初期の新聞の中から抜き出したものである。これを、今の新聞記事として書き直してみよう。 ※文章は省略=執筆者</p> <p>☆この生徒がどのような手順で調べていったか、整理してまとめてみよう。</p> <p>☆身近な地名、歴史上の出来事や人物などについて調べ、四段構成の記録・報告文にまとめてみよう。</p> <p>〈单元末「学習」〉</p> <p>一 自分たちの学校の成立の由来や歴史を調べて報告しよう。</p> <p>二 身近にある動植物の一つを選び、それを観察して記録し、報告してみよう。</p> <p>三 興味のある社会的な出来事について調べ、文章にまとめてみよう。</p>
第九章 説明文	<p>・書き下ろし「1 説明文の特徴」「2 説明文のポイント」「3 線や表の利用」</p>	<p>〈ページ下〉</p> <p>☆「かつて」「かつてない」という語句を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>☆「喚起する」を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>☆言葉を読むためには、いろいろな辞書がある。どんな種類の辞書があるか、またそれらがどのような時、使われるのか、図書館などで調べてみよう。</p> <p>☆目的の場所を決めて、その道順を説明してみよう。問いている人は、その説明を地図に書いて、後でみんなと比べてみよう。</p> <p>☆「切換」をふつうの送り仮名の付け方によって書き直してみよう(付録「表記の手引き」参照)。また、「切換」のような書き方をした理由や効果を話し合ってみよう。</p> <p>☆漢字の音と訓という観点で、この語の構成を考えてみよう。また、「一(ひと)～」という構成を持つ他の熟語を挙げてみよう。</p> <p>〈单元末「学習」〉</p> <p>一 「家畜」という語を、いろいろな国語辞典で引いて、その説明を比べてみよう。</p> <p>二 次の成句を説明してみよう。ただし、第一段落にはその成句のもとになった故事、第二段落にはその意味を書いてみよう。また、この順序を変えて書いてみよう。</p> <p>(1) 矛盾/(2)助長/(3)推敲</p> <p>三 日本の事情をあまり知らない人に説明するつもりで、「正月」「花見」「運動会」のうちから、一つ選び、二〇〇字程度の説明文を書いてみよう。</p>
第十章 論説文	<p>・書き下ろし「1 論説文の魅力」「2 論旨の展開と構成」</p>	<p>〈ページ下〉</p> <p>☆「論旨の展開に(則しながら)(則して)」という語句を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>☆人間の行為の中で、「演劇的儀式」を伴うものがあるか、考えてみよう。</p> <p>☆「所論」という語句を使って、短文を作ってみよう。</p> <p>☆「逆説」の意味を辞書調べ、逆説の例をいくつか挙げてみよう。</p> <p>☆以下、111ページ2行目までの各段落の説明を参考にして、各段落の要旨を、できるだけ一文にまとめ、それらを簡条書きにして書き出し、論旨の展開をたどってみよう。</p> <p>☆引用文の構成に習って、新聞の社説やコラム、あるいは「国語」の教科書の論説文などの構成を図示してみよう。</p> <p>〈单元末「学習」〉</p> <p>一 次の文章を、要旨・題材・構成・用語などの面からそれぞれ検討してみよう。 ※文章省略=執筆者</p> <p>二 「友達」「高校生活と部活」「携帯電話」「情報化社会」の中から一つ選んで、八〇〇字前後で論説文を書いてみよう。</p>
第十一章 さまざまな文章	<p>・書き下ろし「1 心を伝える」「2 体験を伝える」「3 感覚を表現する」</p>	<p>〈ページ下〉</p> <p>☆この文章は漢字片仮名混じりの文であるが、その印象を話し合ってみよう。</p> <p>☆文中のどのような表現が、「書に対する強い関心の言葉」や「すべてを諦めたかのような言葉」といえるか、考えてみよう。</p> <p>☆文中のどのような表現が「日常的な文章」といえるのか、考えてみよう。</p> <p>☆どのような「構成意識」が働いているのか考え、その効果について話し合ってみよう。</p> <p>☆オノロウの描写について、(1)光の動き、(2)色の変化に分けて、その変化の様子を抜き出してみよう。</p> <p>☆文中のどのような表現に「色彩」の豊かさが表れているのか、考えてみよう。</p> <p>☆筆者が見た、子供の頃の風景がどう違うのか、それぞれを簡潔にまとめて、比べてみよう。</p> <p>〈单元末「学習」〉</p> <p>一 『南極に暮らす』の文章を、ただ事実を伝えるだけの次のような文章と比較して、描写の細かさや体言止めなどの効果を確かめてみよう。 ※文章省略=執筆者</p> <p>二 小説を読んだ感想や、自分が今までに経験したこと、感動したことを書いてみよう。</p>

Bーb.既存の教材文が主である単元構成

⑥京都書房(国 I 007)		
(1)目次における単元名	(2)本文として示された教材名と筆者名	(3)(2)に付随する「課題」
第Ⅰ章 言葉・表現をひらく―表現の正体―	(一)書いてみよう―一言・一文があれば表現になる― (二)話してみよう―こうすればわかりやすく話せる―	〈ページ下〉※本教科書唯一のページ下課題である。 [練習]上記の具体例にならって、次の日記を発展させよう。 「六月三日。今日、芸術鑑賞会があった。」 ×
第Ⅱ章 書く技法を学ぶ―表現の基礎―	(一)記録の文章 1 平田オリザ「十六歳のオリザ、冒険をするす本」 2 武田百合子「富士日記」 3 松沢哲郎「チンパンジーの石器使用」	[学習の課題] 【考えてみよう】 [1]例文「十六歳のオリザ、冒険をするす本」について、次の点を考えてみよう。 (1)数字がよく出てくるが、それはどのようなことに関する数字か。 (2)一般的に、旅行記として書いておきたいことはどのようなことだろうか。また、「十六歳のオリザ、冒険をするす本」には、そのようなことが書かれているだろうか。 (3)文末表現にはどのような特徴があるか。また、どんな効果をもたらしているだろうか。 [2]例文「富士日記」について、次の点を考えてみよう。 (1)食堂に舞い込んでから、死んで埋めるまでの鳥のようすについて、事実を述べたところと、想像を述べたところを区別してみよう。またこの部分は、そばに主人がいるのに、主人のようすや反応に全く触れていない。それはなぜだろうか。 (2)鳥の死を描きながら、「かわいそうだ」といった言葉がないのはなぜだろうか。また、そのような言葉があれば、印象はどのように違ってくるだろうか。 (3)本文に描かれた草の絵は、どのような効果があるか。 [3]例文「チンパンジーの石器使用」について、次の点を考えてみよう。 (1)調査・観察・実験などの記録は、目的・方法・手順・問題点・日時・場所・経過・結果などが示される必要がある。それらは、適切に示されているだろうか。 (2)この文章には、説明も加えられている。それを指摘してみよう。また、なぜ説明が加えられているのだろうか。 [4]次の(1)～(3)それぞれの中で、事実を客観的に記す文章としてふさわしいものはどれか。 ※文例省略=資料作成者 [5]次の文章で、もっと具体的に書いたほうがよいと思われるところはどこか。傍線を引いてみよう。 ※文章省略=資料作成者 【書いてみよう】 [1]あなたの机の上に今ある文房具の1つを観察し、その形態や特色を描写してみよう。(大きさ、色、模様、傷など、何を書いたらよいかよく考えて書くこと。) [2]今日学校へ来る途中で見たこと、あったことを一つ取り上げ、記録文として書いてみよう。(SWIHIに気を付けて書くこと。) [3]字級日誌を付けてみよう。エピソードをまじえて、感想ではなく事実を書いてみよう。
	(二)説明の文章 1 小関智弘「ほんとうの真っ平ら」 2 五十嵐謙吉「最も新しい昆虫」 3 石川英輔「江戸の銭湯」	[学習の課題] 【考えてみよう】 [1]例文「ほんとうの真っ平ら」について、次の点を考えてみよう。 (1)次に挙げた定盤作りに使う道具や作業工程について、本文ではどのように説明されているか。それに当たる部分に傍線を引いてみよう。 ※道具名等省略=資料作成者 (2)(a)「定盤」というのは、表面が真っ平らで、その平面を基準にして、工場で作る部品を測定したり、墨引き(墨書き)という仕事をしたりするものである。[32ページ・2～3行目]は、どのような観点からの説明だと言えるか。(b)また、「むろん、熟練を要する。」[33ページ・8行目]が、どのような観点からの説明だと言えるか。それぞれ、「説明の文章とは」の解説(37ページ)を参考にして考えてみよう。 (3)定盤ができるまでを、手順だけの説明にすると次のようになる。空欄①～③にはどのような説明を入れたらよいだろうか。本文を参考にして考えてみよう。 ※文章省略=資料作成者 [2]例文「最も新しい昆虫」について、次の点を考えてみよう。 (1)第二段落、第四段落、第五段落は、それぞれどのような観点からの説明だと言えるか。「説明の文章とは」の解説を参考にして考えてみよう。 (2)本文中の表現を用いながら、次のことを説明してみよう。 ①新翅目/②蝶という感じの意味/③蝶が出現し、個体数が増加した理由 [3]例文「江戸の銭湯」について、次の点を考えてみよう。 (1)この文章は、江戸の銭湯がどのようなものであったかについて、その「事実」を述べた第一段落・第五段落と、「説明」を加えた第二段落・第三段落・第四段落に分けることができる。それでは、どういう観点からの「説明」が、第二～第四段落で加えられているか。本文に即して具体的に考えてみよう。 (2)次の文章は文中のある語の説明である。その後は何だろうか。 ※文章省略=資料作成者 【書いてみよう】 1犬、(2)自転車、(3)窓について、それぞれ四百字程度で説明してみよう。その際、次にあげる項目を必ず取り上げて説明すること。辞書や事典などで調べるとよい。 ※項目省略=資料作成者 [2]「外来語」とはどういうものか。次の(参考)のような外来語に関する事実の報告も加えて、それを説明する文章を書いてみよう。 ※参考資料省略=資料作成者
[表現演習1]	×	「日本ほど自動販売機がどこにでもある国はない、ということ聞いた山田さんは、駅から学校までの通学路にどれだけ自動販売機があるかを調べてみた。その位置を示したものが次の地図である。この地図を見ながら、駅から学校までのどこに、どのような自動販売機があるかを、①、②の手順で文章にしてみよう。 ※手順省略=資料作成者 [二]次の四コマ漫画を見て、猫(ノラ)の行動やようすを、(注)や①②に留意しながら、順を追って文章で述べてみよう。 ※(注)等省略=資料作成者 [三]何かテーマを決めて、一週間の記録を書いてみよう。(一行から数行でよい。) [四]次の(1)(2)は事実だけを記した文である。外国の人にもわかるように、これに説明を加えて文章を書こう。(参考)に挙げた事柄を読んで、これらについて知っていること、調べたことを説明として加えて、まとまった文章になるように書いてみよう。 ※(参考)等省略=資料作成者

<p>第三章 伝え合うコミュニケーション</p> <p>(一)報告・紹介の文章</p> <p>1 文化庁「一コマ」</p> <p>2 山本鉱太郎「なぜ化野の念仏寺には石仏が多いのか」</p> <p>3 生徒作品「タコ焼き「ふる里」」</p>		<p>【学習の課題】</p> <p>【考えてみよう】</p> <p>[1] 例文「一コマ」について、次の点を考えてみよう。</p> <p>(1)44ページ上のグラフについて筆者が読み取ったことを示す一文を、本文中から抜き出してみよう。</p> <p>(2)「ものを数えるとき、数の後に」蔵、本、冊、台、件」などの言葉(助動詞を添えます。)(44ページ・10～11行目)とあるが、身の回りにある、さまざまなものについて、それはどのような数え方をするか、できるだけたくさんの方の例を挙げてみよう。</p> <p>(3) 44ページ上のグラフと本文下欄のグラフを比べて、筆者が読み取った違いは何か。それを示す一文を本文から抜き出してみよう。</p> <p>(4) この文章は、「報告文」が持つべきどのような特徴を持っているといえるか、次に示す観点を手がかりに考えてみよう。</p> <p>①報告のテーマ/②事実の示し方/③その読み取り方/④説明の仕方</p> <p>[2]例文「なぜ化野の念仏寺には石仏が多いのか」について、次の点を考えてみよう。</p> <p>(1)本文を、(a)文献などを手がかりに書いたと思われる部分、(b)体験をもとに書いたと思われる部分、(c)どちらとも言えない部分とに分けてみよう。</p> <p>(2)この文章は、感じた謎について文献などを手がかりに調べ、報告したものであるが、(1)で考えたように、体験をもとに書かれた部分もある。このように筆者の体験を加えることで、読み手にどのような効果を与えているか考えてみよう。</p> <p>(3)文章のタイトルである「なぜ化野の念仏寺には石仏が多いのか」の答えとなる部分を指摘してみよう。</p> <p>(4)本文に出てくる『徒然草』第七段の引用全文を現代語訳し、そこにみられる吉田兼好の考え方をまとめてみよう。</p> <p>[3]例文「タコ焼き「ふる里」」について、次の点を考えてみよう。</p> <p>(1)本文の各段落に小見出しを付けるとすれば、どのようなものがよいか。一段落と二段落の解答例に続いて考えてみよう。 ※例省略=資料作成者</p> <p>(2)【取材を終えて】を読み、取材するうえで筆者が工夫した点を簡潔に述べてみよう。</p> <p>【書いてみよう】</p> <p>[1]学校の中に(いつも)あるもの・いる人について、次の観点で他人に知らせる文章を書いてみよう。 ※観点省略=資料作成者</p> <p>[2]次の観点を順に書くことで、会社や大学(または、短大・専門学校など)に「自分の熱意」をアピールする自己紹介文を完成させてみよう。 ※観点省略=資料作成者</p> <p>[3]自分の学校の文化祭について、次の観点で他校の友達に紹介する文章を書いてみよう。 ※観点省略=資料作成者</p>
<p>(二)伝達の文章</p> <p>報道 テレビ1「[NHKニュース]女子マラソン金メダル」</p> <p>新聞記事2「『読賣新聞』女子マラソン金メダル」</p> <p>手紙 案内3「合唱部創部30周年記念会の案内」</p> <p>近況報告4「芭蕉の手紙」(古文)</p> <p>連絡 掲示文5「臨時ホームルームのお知らせ」</p>		<p>【学習の課題】</p> <p>【考えてみよう】</p> <p>[1]テレビニュースは視聴者に映像と音声(文字)とによって、新聞記事は読者に文字と写真とによって情報を伝える。マラソンの報道について、テレビのニュースと新聞記事を読み比べ、次の点を考えてみよう。</p> <p>(1)テレビニュース・新聞記事それぞれの構成を明らかにしよう。テレビでは、スタジオアナウンサーと実況アナウンサー、本人の談話などの組み合わせに注意する。新聞では、見出し・リード・本文からなることを確認しよう。また、なぜそのような構成になっているか、理由も考えてみよう。</p> <p>(2)内容の取扱い方から受ける印象はどのように違うか、考えてみよう。</p> <p>(3)テレビのアナウンサーの言葉と新聞記事の文章では、表現の方法・文の長さ・用語はどのように違うか、考えてみよう。</p> <p>[2] 川田君と北村さんの書いた「案内の手紙」について、次の点を考えてみよう。</p> <p>(1)案内の手紙は、形式にしたがって書くことが大切である。そこで、「合唱部創部30周年記念会の案内」の案内の手紙を、「手紙の基本パターン」(59ページ)を参考に、構成部分に分けてみよう。</p> <p>(2)目上の人に出す場合は、敬語に注意しなければならないが、ここではどのような敬語が使われているか。</p> <p>(3)案内の手紙では、読んだ人が参加したいと思うことが大切であるが、ここではそのためにどのような工夫がなされているか。</p> <p>(4)あとにまとめられている「記」は、(a)何について述べたものか。(b)また、どのように書かれているか。(c)さらに、このように書くのはなぜか。</p> <p>[3]例文「芭蕉の手紙」について、次の点を考えてみよう。</p> <p>(1)次の日時における芭蕉の行動・状態を、簡潔にまとめてみよう。 ※日時省略=資料作成者</p> <p>(2)兄の松尾半左衛門に心配をかけまいとする芭蕉の配慮が感じられるが、それはどの部分から読み取れるか。指摘してみよう。</p> <p>[4] 次の(1)～(3)のaとbはどう違うか、読み比べてみよう。また、aとbはどちらが伝達の文章としてふさわしいか、考えてみよう。 ※文章省略=資料作成者</p> <p>【書いてみよう】</p> <p>[1]次の出来事について、後のような報道の原稿を書いてみよう。 ※出来事省略=資料作成者</p> <p>(1)まず、新聞記事の型にしたがって書いてみよう。</p> <p>(2)それをテレビのニュースにするには、どのような変更を加えるか。放送原稿も作ってみよう。</p> <p>[2]次のような主旨で書かれた手紙を、後の手紙(1)(2)にしたがって正しく書き直してみよう。 ※手紙省略=資料作成者</p> <p>(1)読み返す観点としては次のものがある。不適切な部分はないか考えてみよう。 ※観点省略=資料作成者</p> <p>(2)不適切な部分を書き改めて、次の構成で依頼の手紙を仕上げよう。 ※構成省略=資料作成者</p>
<p>[表現演習2]</p>	<p>×</p>	<p>【学習の課題】</p> <p>【考えてみよう】</p> <p>[1]最近観戦したスポーツの試合について、次の観点にそってその試合を見なかった人に知らせる文章をまとめてみよう。 ※観点省略=資料作成者</p> <p>[2]次に示す「最近読んだ本」の紹介文と、この紹介文を作成するに当たって参考にした文型をもとに、本の紹介文を書いてみよう。 ※例・文型省略=資料作成者</p> <p>[三] 次の(1)～(5)の手順でインタビューを試み、クラスで報告してみよう。 ※項目下の例省略=資料作成者</p> <p>(1)目的に応じた相手を選ぶ。/(2)質問を準備する。/(3)インタビューをする。/(4)インタビューの内容を整理する。/(5)インタビューの報告をする。</p>
<p>第四章 意見をもって述べる—自己の確立—</p> <p>(一)意見の述べ方—説得力のある談話・文章—</p>		<p>【学習の課題】</p> <p>【考えてみよう】</p> <p>[1]「事実の記録・報告」については、Ⅱ章の「記録」とⅢ章の「報告」とで学んだ。次に示した意見(1)(2)に対して、具体的な事実として挙げるのが適当なのは、それぞれa～cのどれか。 ※例文省略=資料作成者</p> <p>[2]次の文章を、「意見文の構成3」に従って、それぞれの部分の役割を考えてみよう。 ※文章省略=資料作成者</p> <p>(3)次のa～cは、文章を構成する段落の要旨である。(1)これらとどのような構成で並べればよいか。(2)また、より説得力のある文章にするには、どのようにすればよいか、「意見文の構成3」を参考に考えてみよう。 ※要旨省略=資料作成者</p> <p>【書いてみよう】</p> <p>[1]Aの文章に、ニュース報道での決まり文句の使用例が挙げられているが、他の分野での決まり文句にはどのようなものがあるか。その探し出した決まり文句について、次の構成を持つ短い文章を書いてみよう。意見は、賛成・反対どちらであってもよい。</p> <p>【構成】第一段落 その事実の報告/第二段落 それについての解説/第三段落 あなたの意見</p> <p>[2]次に示した手順で意見文を書き、発表してみよう。</p> <p>(1)次のa～bいずれかの立場に立て、その意見に合った「具体的な事実」を箇条書きにして書き出してみよう。 ※立場省略=資料作成者</p> <p>(2)(1)で選んだa・bの「意見の理由」となることを書き出してみよう。</p> <p>(3)(1)で書き出した「具体的な事実」から最適なものを選び、(2)で書き出した「意見の理由」を整理して、次の構成で一つの意見文に仕上げてみよう。</p> <p>【構成】第一段落 具体的な事実/第二段落 意見/第三段落 その理由</p> <p>(4)書き上げたものをもとに、口頭で発表してみよう。</p>

[表現演習3]	×	<p>【一】「性別による言葉の使い方に違いはあったほうがよいか。」というテーマをめぐって、次の(1)～(5)の手順にしたがって、意見文を書いてみよう。</p> <p>(1)次に掲げたものは、テーマに関する発想材料の例を箇条書きにしたものである。これら以外にどのようなことがあるか、考えて書き出してみよう。 ※例省略=資料作成者</p> <p>(2)(1)で考えた発想材料から五つ程度を選び、それを材料に、テーマ「性別による言葉の使い方に違いはあったほうがよいか。」について、賛成か反対かを決め、その根拠となる事柄を考えよう。</p> <p>(3)グループを作り、(2)で決めた自分の意見(結論)と根拠をグループの中で発表し合う。</p> <p>(4)賛成派と反対派とに分かれて、お互いに相手側を説得するにはどのような意見の述べ方をすればよいかを、賛成派・反対派それぞれ考えて相談しよう。</p> <p>(5)話し合ったことを利用して、個人ごとに、次の構成にしたがって意見文を書いてみよう。</p> <p>①事実の報告/②自分の意見の表明(結論)/③意見が正しいことの論証/④対立意見への反論</p>
第Ⅴ章 日本語を考える—言葉・表現の歴史—	(一)言葉の歴史・文章の変遷—類義語と語彙—	<p>【学習の課題】</p> <p>【考えてみよう】</p> <p>(1)語種の異なる類義語のセットとして、「明かり」「灯火」「ライト」がある。これについて考えてみよう。</p> <p>(1)次の①～⑧の()に入れる語として、右の三つのうち、どの語が最も適切か。 ※問省略=資料作成者</p> <p>(2)右の例文以外にも、自分たちで例文を作ってみよう。</p> <p>(3)それらの例文を通して、三つの語にどのような共通点と違いがあるかを考えてみよう。</p> <p>(2)和語と漢語は、その後を漢字で書いた場合の音と訓とに關係がある。次の語例の表をもとに、和語と漢語の關係はどうなっているのか、考えてみよう。 ※表省略=資料作成者</p> <p>(3)『万葉集』と『平家物語』について、読んだときの感じや、耳で聞いたときの印象はどのように違うだろうか、考えてみよう。</p> <p>(4)外来語には、和語や漢語にはない音が使われることがある。それらにはどのような音があるか。次の外来語の例をもとに考えてみよう。 ※例省略=資料作成者</p> <p>(5)①わたしたちの身の回りの文章で、和語が中心となるものにどのような文章があるだろうか。(2)また、漢語・外来語について、それぞれが多く使われている文章にはどんなものがあるか。(3)さらに、それらの文章で、和語・漢語・外来語は、それぞれどのようなイメージをもたしているか、考えてみよう。</p>
	(二)国語表現の特色と異文化 細川英雄「謙遜表現」	<p>【学習の課題】</p> <p>【考えてみよう】</p> <p>(1)「謙遜」と「お世辞」の共通点はどこにあるか。また、違いはどのような点にあるか。本文をもとにして、それぞれの目的、表現の特徴、表現対象などについて考えてみよう。</p> <p>(2)「お世辞」と「皮肉」の例を挙げよ。そして、それらと「うそ」とは、どういう関係にあるか(お世辞は皮肉は、うそやそうでないのか)を考えてみよう。</p> <p>(3)敬語の謙譲表現と謙遜の関係について、次の場合の表現を考えてみよう。 ※例省略=資料作成者</p> <p>(4)「言語による交際機能」(98ページ)とは、どういうものだろうか。「つまらないものですが。」という表現の場合をもとに考えてみよう。</p> <p>(5)「今度遊びに来てください。」(99ページ)と言うのは、どうしてだろうか。そういう場合の心理を想像してみよう。</p> <p>(6)次のような場合、どういう問題が生じるだろうか、考えてみよう。</p> <p>(1)「お世辞」「謙遜」の表現を一切しなかったら……/(2)一切、「うそ」をつまらなかったら……</p> <p>(7)プレゼントをするときに、謙遜をする習慣のない外国の人に、「つまらないものですが。」と言うのと、「わたしの絶対のお勧めのものです。」と言うのと、どちらがよいだろうか、考えてみよう。</p> <p>(8)「実質的な意味をもたない表現」をすることについて、どのような点に注意をする必要があるか、考えてみよう。</p>

〈引用参考文献〉

幸田国広（2011）『高等学校国語科の教科構造—戦後半世紀の展開—』 溪水社